

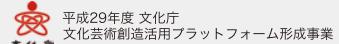
■主催：

かけがわ茶エンナーレ実行委員会

■支援：



■助成：



■特別協賛：



資生堂アートハウス  
SHISEIDO ART HOUSE

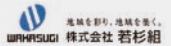
資生堂企業資料館  
SHISEIDO CORPORATE MUSEUM

■協賛：



三菱電機照明株式会社

Rinnai リンナイテクニカ株式会社



株式会社浅岡工業、有限会社エイン、掛川グランドホテル、  
掛川城、株式会社掛川水道設備、掛川土建株式会社、株式会  
社川北電気、カワサキ機工株式会社、株式会社川島組、協和  
水道株式会社、有限会社佐野舎、静岡パークス株式会社、中  
部電力株式会社掛川営業所、株式会社トダックス、トップ・  
フォームズ東海株式会社、株式会社藤本組、株式会社マツイ  
健設、松浦船包输送株式会社、株式会社山本組

■後援：

静岡県、掛川市文化協会、静岡新聞社、静岡放送、中日新聞  
東海本社、読売新聞静岡支局、朝日新聞静岡総局、毎日新聞  
静岡支局、郷土新聞社、NHK静岡放送局、静岡朝日テレビ、  
静岡第一テレビ、テレビ静岡、K-mix



■お問い合わせ

かけがわ茶エンナーレ実行委員会(掛川市文化振興課)

〒436-8650 静岡県掛川市長谷1-1-1  
TEL.0537-21-1126 FAX.0537-21-1165  
E-mail. chaennale@city.kakegawa.shizuoka.jp

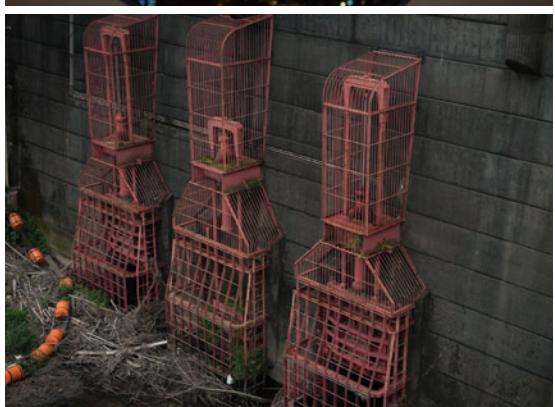
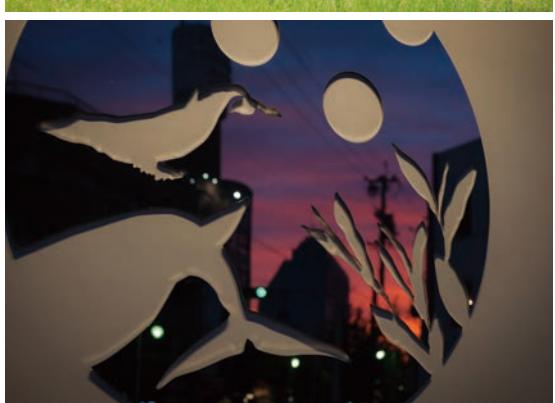
かけがわ茶エンナーレ 検索



# KAKEGAWA CHAENNALE

現代アート  
フェスティバル かけがわ茶エンナーレ

公式ガイドブック



お茶と文化と歴史と人が、アートと出逢う。

# ようこそ、かけがわ 茶エンナーレへ！

WELCOME TO THE KA  
KEGAWA CHAENNALE!!

ずっとつながってきたストーリー。  
まちと市民のアートを大切に思う心が  
大きなカタチになった芸術祭

2017年10月21日、静岡県西部で初となる本格的な大型現代アートフェスティバル「かけがわ茶エンナーレ」が、いよいよ幕を開けます。11月19日までの30日間、アーティストと市民、地域がひとつになり、アート作品の展示やパフォーマンスイベントなど100を超えるプログラムが、掛川市全域にわたって催される一大地域芸術祭です。

美しい茶畑が広がり、道徳と経済の両立を重んじる報徳思想をはじめ、はるかな歴史と豊かな文化が

息づく日本有数の茶産地掛川市は、アートを大切にする心をゆっくりと育んできました。

1978年に創設された、近現代美術をコレクションする「資生堂アートハウス」。その10年後には、JR掛川駅前に世界的彫刻家ジュン・スズキさんによる2つのモニュメントを市が設置。「ねむの木こども美術館」や「二の丸美術館」の設立。市民団体の主催で19年間続くアートイベント「遠州横須賀街道ちっちゃな文化展」。そんな中、茶エンナーレ発足の大きなきっかけとなったのが、市内各所のパブリックアートの清掃活動を自主的に始めた市民団体の存在です。「この活動を永続的に続けていくためには、まず自分たちがアートを理解しその価値を伝えていか

なければいけない」。そう考えた市民らは、今からちょうど10年前、後にかけがわ茶エンナーレ総合プロデューサーとなる山口裕美さんに依頼し、「現代アート茶会」を開催。年に一度、若手の現代アーティストを掛川に招いて茶道具をつくりてもらい、お茶会を開くという企画でした。やがて行政も彼女たちをバックアップするように。茶会は7年続き、掛川のためにつくられた7種類のアーティスティックな茶道具がそろったころ、個別だった文化活動をまとめようと市が動き出しました。そうしてさまざまな団体の協力を経て実現したのが「かけがわ茶エンナーレ」です。この芸術祭には長い時間をかけてつながってきた、まちと市民のアートを思う心が詰まっています。

コンセプトは「喫茶去」。  
すべての人を平等にもてなす  
茶の湯の精神

喫茶去（きつさこ）とは、身分や間柄にかかわらずどんな人にも「まずはお茶一杯お飲みなさい」と分け隔てなく接した、唐の時代の和尚の逸話に由来する禅語。万人を平等にもてなす茶の湯の精神にも通じています。かけがわ茶エンナーレではこの喫茶去をコンセプトに、市内のいたるところでおいしいお茶を振る舞い、ご来場いただぐ皆さまをおもてなします。一杯のお茶が心身をリラックスさせ、アートのすばらしさを堪能する手助けになれば幸いです。



## かけがわ茶エンナーレ開催に寄せて

掛川市長

松井三郎 *Saburo Matsui*

いよいよ、かけがわ茶エンナーレが開幕します。茶エンナーレは、掛川市の「美しい風景」や「歴史資源」など、掛川の魅力を再発見し、世界に発信する絶好の機会でもあり、シティプロモーションの面からも、大変期待されています。茶エンナーレの開催により、掛川城・御殿や大日本報徳社などの文化財、茶畑や森林などの自然、商店街や町並みなど、普段見慣れた景色が、市民・団体や、国内外で活躍する現代アーティストらの作品と融合して、新たな魅力で輝くでしょう。茶エンナーレから始まる掛川文化の創造を目指し、未来に繋がる地域芸術祭となるよう、また、開催期間中、すべてのお客様に心を込めた喫茶去の精神のおもてなしができるよう取り組んでまいります。

かけがわ茶エンナーレの開催にあたり、大変なご尽力をいただきました実行委員会の皆様をはじめ、市民、団体、企業、関係の皆様に、あらためて御礼申し上げます。

実行委員会会長

日比野秀男 *Hideo Hibino*

アートは置かれた場所によって、その表情を様々に変化させます。ある時は光り輝き、また別のときには大きく反発します。そうしたことから地域の歴史や文化を見直すのにも良い存在です。見慣れた景色も新しいアートという異質なものが加わることによって見つめなおすことが出来ます。各地で開催されているトリエンナーレやビエンナーレ形式の展示は新しいアートそのものを見ることより、置かれた場所を見つめなおすことが一番の目的でしょう。それによって地域が活性化する、交流人口が増えるという当面の目的が各地で達成され、評価されてています。かけがわ茶エンナーレも、大きな目的は掛川に伝わった歴史と文化の大切さが将来を担う若い人たちに強く植えつけられることにあると言えるでしょう。一時的な交流人口の増加だけでなく、将来的に持続できる文化の継承を、かけがわ茶エンナーレが果たしてくれることを願っています。

実行委員長

大木敏行 *Toshiyuki Ooki*

「かけがわ茶エンナーレ」は、掛川市内の文化施設や茶畑などで、現代アーティストの作品展示などアート活動を展開する芸術祭です。日常生活の中にある景観や文化にアートを組み入れることで、それらに注目し、その魅力を再発見する機会にしたいと思っています。市外の方へのアピールも大切ですが、それ以上に市民の皆様に、ふだん見慣れている美しい茶畑、掛川市が誇る歴史的建造物、美術館、ふだん飲んでいるおいしい掛川茶やその生活文化など、地元の良さをあらためて知りたい、感じて欲しいと思っています。ただのイベントとして終わらせる事なく、茶エンナーレを通して感じたことや気運が意識の中に息づき、最終的には芸術祭がなくても日常の中にアートが溶け込み、新しい豊かなライフスタイルを創造することが理想です。今回は初めての開催となりますので、市民の皆様と一緒に考え、楽しみ、そしてあらゆる年代の方が楽しめる未来志向の芸術祭にしたいと思っています。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

総合プロデューサー

山口裕美 *Yumi Yamaguchi*

掛川へようこそ!かけがわ茶エンナーレは茶産地の掛川市全体を会場にする、地域芸術祭です。私がキュレーションを担当させていただいた JR 掛川駅前周辺の市街地「まちなか」を会場とする「アートセレクション」をはじめとして、地域ディレクターの赤堀マサシさん（松ヶ岡会場／江戸末期の掛川藩山崎家住宅）、平野雅彦さん（大東エリア）、夏池篤さん（東山・日坂エリア）がキュレーションを担当した会場にもたくさんのアーティストの皆さんのが参加しています。さらに、一般公募のエントリープログラムの方々が市内各所で展示を行い、まさに掛川市全体がアートでいっぱいになる1ヵ月間となっています。まずは駅前周辺の「まちなか」からスタートしていただき、掛川の建物や風景と一緒に、掛川茶を飲みながら、アート作品を見ていくと、その表現の中に未来の思考の種が詰まっています。その種が掛川市で開花することを願っています。

## かけがわ茶エンナーレを構成する2大プロジェクト

今を時めく現代アーティストたちが、  
かけがわのまちなかをアートで染める！

かけがわ茶エンナーレ総合プロデューサー山口裕美が厳選した、日本の最前線で活躍する現代アーティスト20名+1グループによるスペシャルな展示。掛川城をはじめとする歴史的・文化的に価値のあるスポットを中心に、市街地各所がハイクオリティな現代アートで彩られます。

アートセレクション  
*Art Selection*

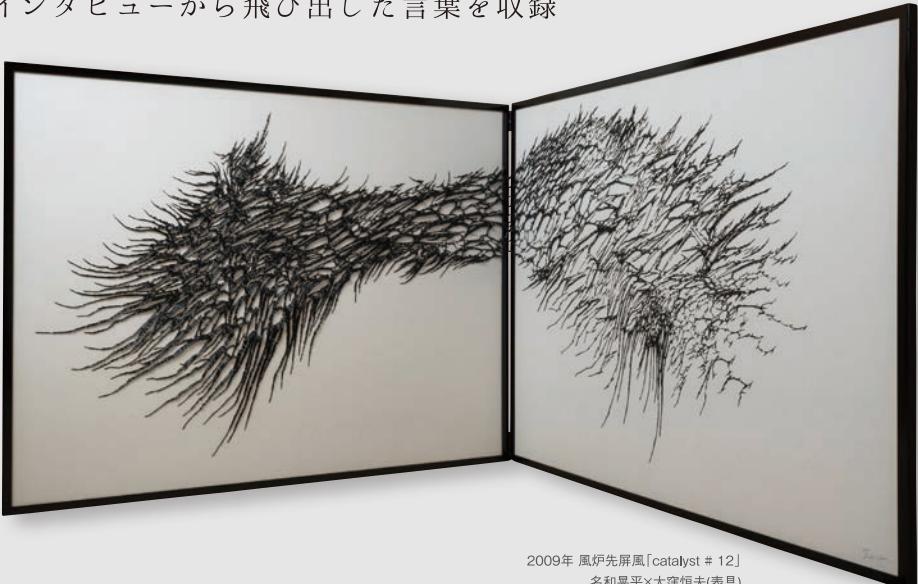
みんなのミュージアム  
*Minna-no Museum*

市民とプロがチカラを合わせ、  
市内全域6つのエリアをミュージアムに！

プロ、セミプロ、市民アーティスト、そして地域住民が一体となり、かけがわのまち全域をミュージアム（美術館）にするプロジェクト。旧東海道、茶畑、溜池、里山、神社、寺、山、川、などなど、6つのエリアがそれぞれまったくちがった特色を生かし、パラエティあふれる展示を行います。

## CONTEMPORARY ARTIST WORDS

茶エンナーレに参加する現代アーティストへの  
インタビューから飛び出した言葉を収録



2009年 風炉先屏風「catalyst # 12」  
名和晃平×大庭恒夫(表具)

どう  
こじつけるかは  
見る人に任せる。

—— 椿昇

僕も若いころは現代アートを毛嫌いしていたんですね。  
でもいろんなものを見ていく中で、目の前に立ち現れるものだけが  
すべてじゃないと知って。それから本当にアートがおもしろくなったり。  
ものごとの本質をつかむとか、考える行為は、  
こんなにも人生を豊かにするのかと。

—— 長谷川愛

—— 大庭大介



2010年 茶杓「火または炎、風または流れ」  
東泉一郎×竹村旬子(茶杓筒)

特に狙いってないんですよ。  
単純に楽しんでもらえたらいいし。  
「どうやってつくったんだろう?」  
とかね(笑)。

—— 笛田亜希



2012年 茶碗「山めぐり」本田健×本田恵美(陶芸)

もともとアートって、答えではなく  
「問いかけ」じゃないですか?

—— 山口裕美  
かけがわ茶エンナーレ  
総合プロデューサー



見たことないものをつくりっているんです。  
だから今までどちがうのは当たり前。

—— 船井美佐



2008年 茶  
「スピーチバルーン・イン・ザヒノマル」  
中村ケンゴ×俵藤ひで(アクリル)

重要文化財の純和風の部屋に  
なまめかしいものを置く。似合うと思います。  
だってそこには昔、人がいたわけですから。

—— 山口典子

見たからホントとか、  
新聞に書いてあるから  
ホントとか、真実って、  
ホントにそういう  
ところにあるのかな。

—— ミヤケマイ



2011年 水指「石水指」  
土屋公雄×山田将晴(石彫)

ここにこの作品を  
置く意味を考えてほしい。

—— 川久保ジョイ

自分としてはむずかしい表現を  
しているつもりは全然ありません。

—— 濱口健

人間って、  
「何か」を感じるように  
できてるんですよ。  
それが美の基本。

—— 竹廣泰介



インターネットって中身がないのよね。  
分かったような気になってるだけで。  
匂いとか手触りとか、人間にとて  
いかに“経験”が大事かということを  
作品の中で言いたいの。ただそれだけ。

—— 柳澤紀子

映画の手法を絵画に入れたら  
どうなるかなと思って  
やり始めたんです。

—— 増田将大

アートは文学と同じで、  
ものすごく個人的なもの。  
必要な人にとってはかけがえのないもの。

—— 中村ケンゴ

子どもの絵を見て感じる。  
「絵っていいなあ」って。

—— 平川恒太



口ではちょっと言えないことも表現しないとね。

—— 石塚隆則

「描くことは消すこと」。  
そう気づいて以来50年、  
僕は“絵をつくり”続けている。

—— 丹羽勝次

人や森、枕や器など、  
具体的なものを描くのは、  
自分の中にある、  
目に見えないリアルな  
感覚を描きたいから。

—— 小林孝亘

新しい絵画はないと  
言われているけど、  
可能性はまだあると思う。

—— 小川佳夫

# ART SELECTION

アートセレクション

総合プロデューサー

山口裕美が厳選した

日本の最前線で活躍する

現代アーティストたちの夢の共演

「アートセレクション」は、茶エンナーレ総合プロデューサー山口裕美が選りすぐった現代アーティスト20名+1グループによる、アートの最前線が体感できるスペシャルな展示。新進気鋭のアーティストから、世界を股にかけるベテランまでが一堂に会す豪華なアートプロジェクトです。江戸時代から明治初期に建てられた、掛川の誇る歴史的・文化的価値の高いさまざまな建造物を中心に、市街地各所がハイクオリティな現代アートで彩られます。ここではそれぞれの作家の作風と、茶エンナーレでの展示作品の概要を紹介。彼ら彼女の作品は、アートが好きな人にも、アートに初めてふれる人にも、きっと人生を豊かにする“何か”を与えてくれるでしょう。



「私はイルカを産みたい…」／2011-2013年映像、立体、ダイアグラム、写真

## Ai HASEGAWA

長谷川 愛

たとえば、世界的な食糧不足を解決する方法と、絶滅危惧種を救う方法が「イコール」であるなら、あなたはその手段を利用しますか？それが、“人が以外の生物を産む行為”であっても？  
たとえばしあわせに団欒する家庭を前に「この家族はこの世に存在していいのでしょうか？」と問われ、Noという権利は誰にあるのでしょうか？それが IPS 細胞等のテクノロジーにより可能になった、母2人娘2人という、“同性カップルの親子”だとしても？

新しい問い合わせ点。可能性。それらを生み出す〈スペキュラティブデザイン〉から派生した長谷川愛の作品は、

〔不〕可能な子供／(Im)possible baby  
「私はイルカを産みたい…／ I Wanna Deliver a Dolphin...」

—— 掛川城御殿、大日本報徳社 仰徳記念館 6 14

愛や倫理観の狭間に、センセーショナルな問いを投げかけてきます。それも、強烈なリアリティを持って。科学と芸術がクロスオーバーして生まれる「あり得るかもしれない現実」を、あなたは正面から受け止められるでしょうか。未来を考えるのはほかの誰でもありません。まぎれもなく、私たちなのです。

### インスタレーション、映像 他

2012年英國Royal College of Art, Design Interactions MA修士取得。2016年MIT Media Lab, Design Fiction Group MS修士取得。2017年から東京大学 特任研究員。第19回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞受賞。

# Aki FUEDA

笛田 亜希

「Animaless Zoo Project 移動動物園inかけがわ  
亨保のゾウが通った道」

—— 大日本報徳社 大講堂 ⑫

戦後の日本に“ゾウブーム”を巻き起こし、69歳でその生涯を終えた、かつての国民的アイドル「象のはな子」。昭和の地方を賑わせた移動動物園と言えば、真っ先にはな子を思い出すのではないでしょうか。笛田亜希が提案するArtは、掛川にやってきた「移動動物園」。由緒ある大日本報徳社の大講堂に、7歳のころのはな子を想像し、実寸大に近いであろう大きさで描いた、縦1.8m、横3mという半透明の巨大なアクリル板が展示されます。これは、消えゆく動物たちを形に留めるために笛田が続ける「Animaless Zoo Project」と、江戸時代に掛川（東海道）を歩いて長崎から江戸へと渡った、7歳の象のエピソードが出逢い生まれた作品です。また大講堂内は、これまでに笛田が制作した動物がモチーフのたくさんの絵画や立体作品で彩られます。

## インスタレーション、絵画 他

2001年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻油画修了。故郷東京武蔵野に愛着を持ち、関連した数多くの作品を制作。作品は絵画(油彩、水墨、水彩)、立体、それらを用いたインスタレーション等。



「はな子-運動場」2014／1620×2600mm キャンバス、油絵具



「X」2016年／230cm×180cm×6cm アクリル、綿布、パネル Photo: 表恒匡 Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE

# Daisuke OHBA

大庭 大介

「X/M」——二の丸美術館 ⑩

「いつ見るのか、どこから見るのか。」光によって、また鑑賞者の見る角度や高さによって、刻一刻と変化する大庭大介の絵画作品は、人との関係によって完成するともいえます。ある瞬間に、とても自分好みの美しい光景を目にしたとして、あなたが一度その場所を離れてしまえば、同じ美しさには二度と出逢えないかもしれません。しかし特殊な絵具で描かれた大庭の作品ならば、またちがった美しさであなたを出迎えてくれるでしょう。それは、“またとない瞬間の連続”で構成される、私たちの日常のドラマや、突き詰めれば宇宙さえも凝縮した、壮大な縮図のようにも感じられます。そこに普遍的な意味を見出すのか、ただのまばゆい絵として捉えるのか。作品は光の下で静かに輝いています。

## 絵画

画家。1981年、静岡県袋井市土橋生まれ。京都在住。京都造形芸術大学大学院芸術専攻准教授。ロンドン、ドバイ、台北など国内外で個展・グループ展を多数開催。



## Kaoru USUKUBO

薄久保香

「リンゴのコラージュ」「化鳥／遊びの法則」

—— 掛川城御殿 9

まるでフォトグラフのように、極めて写実的なタッチで描かれる薄久保香の絵画には、およそ現実世界にはありえない現象が美しく散りばめられています。それは日常生活の延長にある、私たちとかかわりの深い、「何か」。キャンバスの上に描かれる人物は、いつもどことなく停げ、それがいっそう“生”を際立たせているようにも感じられます。茶エンナーレでの制作にあたり薄久保は〈掛川花鳥園〉を取材。そして“人間と自然観を問う”というテーマを導き出しました。「この土地での出逢いや巡り合わせを手掛かりに、作品を描ければ」と語っていた彼女が掛川から得たインスピレーションは、彼女のフィルターを通してどんなカタチに仕上がったのか。画家の目線はきっと想像を超えた世界を紡ぎ出してくれるでしょう。

### 絵画

栃木県生まれ。2010年 東京藝術大学大学院美術研究科博士課程美術専攻修了博士号取得。国内やベルリンなどで個展や芸術祭に参加。国内美術館の収蔵品も複数。

## Katsuji NIWA

丹羽勝次

「地平に立つ」

—— 竹の丸 17



丹羽勝次は35歳のとき、自身の描いてきた絵画作品を天竜川の川原で燃やし、それまでの作風と決別しました。以後50年にわたり丹羽は描くことをやめ、紙や木、石、ロープといったさまざまな素材や、展示する場所さえも作品に取りこむことで、描かないことを描き、つらないとをつくり続けています。茶エンナーレではモノクロームの最新作を出品。丹羽は言います。「描くことは消すことであり、消すことは描くことである」と。そしてそこに現されているのは、自らがつくり続けた表現の痕跡であるとともに、未開の地平における表現の今のかたちだといいます。

### 立体作品

1931年 旧・磐田郡三川村(現・袋井市)生まれ。1966~71年にグループ「幻触」の創立に参加。静岡のみならず国内のアートシーンにすくなく影響を与えた。半世紀以上にわたり県内で精力的な創作活動を続けている。



「丸の内の幻想 #1」2008年／サイズ:91cm×60.6cm 素材:キャンバス、アクリル

## Ken HAMAGUCHI

浜口 健

「静岡県掛川市における名色」

—— 挂川城御殿 ❸

「バカバカしいものや、どことなくマヌケなもの、意味や中身があるのかないのかよく解らないようなものをを目指して制作しています」と自身の作風をユニークに語ってくれた濱口健の絵画は、“現代アートはむずかしい”と思い込んでいる人の固定観念をほころばせてくれそうです。作家自身も「人によっては解りにくかったりするかもしれません、自分としては難しい表現をしているつもりは全然ありません。見たままに楽しんでもらえれば」と話します。出品するのは掛川城を中心に、掛川にちなんだウグイス、桔梗、キンモクセイ、二宮尊徳像などを描いた衝立。掛川市のPRとなるような作品に……なるのか？お楽しみに。

### 絵画

1997年 多摩美術大学日本画専攻卒業。数々の個展やグループ展に出展。「バカバカしい絵」や「しょうもない絵」に一生をかけてどれだけの力を注ぐことができるのか？が、作家としての一貫したテーマ。

## Kengo NAKAMURA

中村 ケンゴ

どこかで見たことがあるようでいて、見たことがない新鮮さ。特に深い意味のないモチーフを組み合わせて、特別深い意味を持たせてしまう、その矛盾とおもしろさ。中村ケンゴは、相反するものの対比や、アンビバレン特（真逆の価値や感情などが共存する状態）なものを多くの作品のテーマにしてきました。茶エンナーレでは、日の丸をモチーフにした大きな絵画2点を、展示場所となるまちなかの衣料品店〈イシバシヤ〉にあった昭和の香り漂うポスターや什器、ノベルティと組み合わせ、ショウウンドウに展示。高度成長期のシンボル的な“新幹線”などと、市民の暮らしが色濃く残る“地元の古い商店”などの対比から、戦後の日本の断面の表現を試みます。まちの景色の中に現代アートがどう溶け込むのかも、ひとつの見どころになるでしょう。

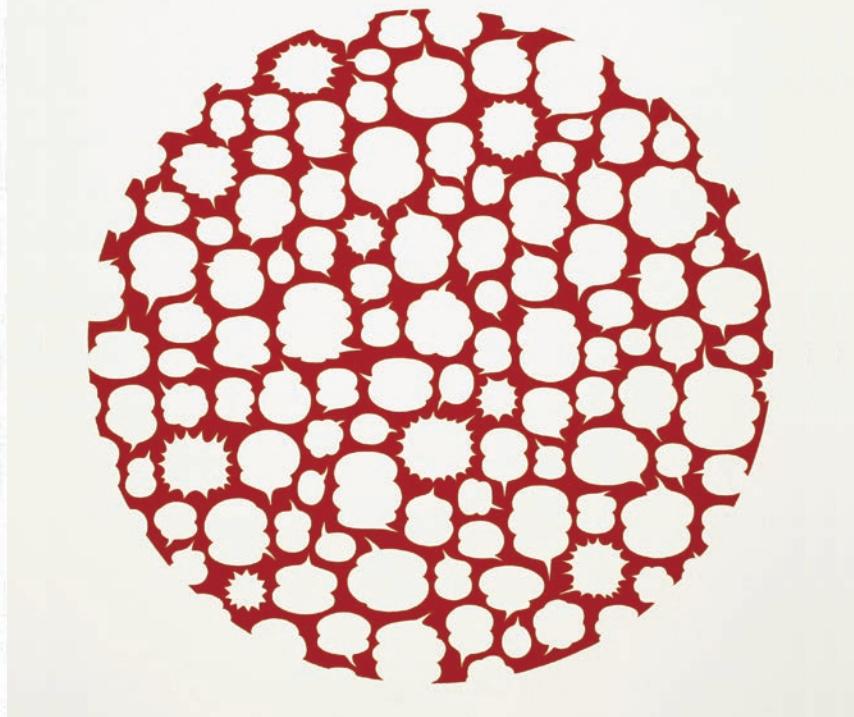
### 絵画・インスタレーション

マンガの吹き出しやキャラクターのシルエットなど、現代社会を表象するモチーフから、美術史上のさまざまなイメージまでを用いたユニークな絵画を、日本画の技法で制作している。国内外の展覧会、アートフェアに多数出品。

「風に吹かれて」

「スピーチバルーン・イン・ザ・ヒノマル」

—— イシバシヤ ❹



《スピーチバルーン・イン・ザ・ヒノマル》(部分)2010年／66×94 cm 素材:パネルに和紙、岩絵具、顔料、膠

雄大に広がるファンタジックな世界を描いた平川恒太の絵画は、いつもどこないポジティブさを感じさせてくれます。もちろん作品の裏側には、哀しみや憂いが潜んでいてこと、もしくはもっと大きなメッセージが込められていることだってあるでしょう。しかしそれを一筋の希望のようなものに変えていくチカラが、彼の紡ぐ世界はある。今回平川がテーマに選んだのは、「すべての生物が共存する、平和な森」そこには武士でさえ刀を置いて入らねばならない、茶室の精神性を重ね合わせています。展示されるのは新作絵画3点と、人の一生や子どもたちの旅立ちの姿などを表現した、四季の名がそれぞれのタイトルにもなっている4つの連作です。図書館の一室が、絵画に包まれた争いのない森に変わります。

## Kota HIRAKAWA

平川 恒太

### 絵画、インスタレーション

1987年 高知県生まれ。東京藝術大学修士課程修了、画家、アーティスト。主な受賞歴にアートアワードトーキョー丸の内2013三菱地所賞、損保ジャパン美術賞展 FACE2013審査員特別賞など。

[Where Do We Come From? Where Are We Going?]

Seasons tetralogy - spring ~ winter ほか

—— 中央図書館 19



Work No70,[Where Do We Come From?Where Are We Going?]Seasons tetralogy-spring 2013／130.3×162cm

「サイト・スペシフィック」とは、その場所でしか生まれ得ない、その場所でなければ成立しない作品や作風を指す、表現形態のひとつです。ミヤケマイはそこに“鑑賞者が自分で考えたり感じたりする”的を促す「装置としての美術」をプラスすることで、より深くて奥行きのある世界へといざなってくれます。近現代美術がコレクションされる〈資生堂アートハウス〉と、女性の風俗と文化の歴史が詰まった〈資生堂企業資料館〉という地で彼女が展示するのは、女性のさまざまな姿を彷彿とさせる3つの光る掛け軸。アートハウスの入り口に飾られるそれは、自分と家族のしあわせを守ろうと女性がつくる（目に見えない）結界のようでもあり、「まあお茶でも飲んでいきなさい」と寄り添うように人をもてなす、ありふれているけれど普遍的な女性の生きざまとも重なります。



おかえりなさい。/Where All Gods Have One Name／インスタレーション 2015年  
大分県立美術館所蔵 photo:繁田諭/Satoshi Shigeta

## Mai MIYAKE

ミヤケマイ

「世界を支える柱(Pācem Meam Do Vabis / 私の平和をあなたに)

-Have Some Tea Dear-

協賛:株式会社海光社、黒田商店

—— 資生堂アートハウス 20



「Interval of time」2017年 サイズ W.996cm H.266cm D.5cm Mixed-media

## Masahiro MASUDA

増田 将大

「Interval of time #16」

—— 掛川城御殿 7

時間の流れを一枚の絵画の中に閉じ込める。それが増田将大の作風です。ある場所（主には展示会場）を撮影し、それをプロジェクターで同じ場所に投影して、さらに撮影する作業を幾重にもくりかえし、時をつなぎ合わせていく。そうして仕上がったイメージは、シルクスクリーンという色ごとの版を擦り重ねていく版画の技法を用いて、一枚の絵画に収められます。「同じ視点で撮影とプロジェクションを繰り返す工程を、シルクスクリーンという重層的な制作プロセスで再現することに意味があると考えています。」それは確かに存在していた「実像」でもあり、どこにも存在しない「虚像」でもあります。描かれる場所、展示される場所の過去と現在の物語がつながり、その先の未来さえ感じさせる作品を前に鑑賞者は何を考えるのか。展示場所は掛川城御殿です。

### シルクスクリーン

1991年静岡県生まれ。2014年東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。在学中より個展やグループ展など精力的な活動を行ってきた。2012年TURNER AWARD大賞、2014年CAF ART AWARD大賞、GOLDEN COMPETITION大賞

## Misa FUNAI

船井 美佐

「Comet -大地をひらく星をみあげる-」  
「Super nova -大地をひらく星をみあげる-」

—— we+138、彗星発見の丘 3 93

どこにもないのに誰もが知っている、イメージの中にだけある景色、「楽園」。船井美佐はそれを鏡で描くことで、イマジネーションの世界と現実の風景を一つにします。そしてその不思議な世界の中には、鑑賞している自分自身一。「人は絵画を見るときに、自分の中を見ているんです。自分の中にある、記憶や思い出、感情や体験と照らし合わせて」と船井は語ります。茶エンナーレでは2つの作品を出品。茶畑に囲まれた〈彗星発見の丘〉に鏡の作品を、まちなかの商業施設〈we+138〉には、実際にすべることができるすべり台型の作品を展示します。どちらも想像と現実の世界を行き来することを表していますが、置かれている場所は対照的。古くからの風景と、変化していくまち並み。作品は、未来を考える装置にもなり得ます。

### インスタレーション

現代美術作家。1974年京都生まれ。2001年筑波大学大学院修士課程芸術研究科修了。上野の森美術館や東京都現代美術館でのグループ展はじめ、個展や芸術祭にも多数出展。パブリックアートの制作やワークショップなど社会と関わる活動も行っている



「樂園／境界」2014年／顔料、木、ステンレス 撮影：木奥恵三 東京都現代美術館

# Nana NIWA

丹羽菜々

「風に溶ける・2017」

—— we+138、山崎ビル、味藏ビル ②



「風と光と」

カラフルな布が日常の見慣れた景色を華やいだものにする。茶エンナーレに丹羽菜々が出品するのは、無数に広がっていく色の帯たち。JR掛川駅から掛川城へと向かうメインストリートのビルの外壁にいくつもの色の帯がはためきます。それはまるで、風に色が溶けていくように。作品の意図を、彼女はこう話します。「布の一枚一枚の意味や技法より、色の帯が掛けられることによって建物の見え方がどう変わるか、まちなみが日常から非日常に変容するさまを楽しんではほしい」と。そこには、晴れやかな気持ちとともに遠州の大らかな風と光が、まち全体に広がればいいな、という願いが込められています。

## インスタレーション

「増殖する」「拡がる」「endless」をキーワードに、平面を中心に創作を行う。静岡県内、東京、札幌などで個展、グループ展を開催。現在は『here and there』シリーズと、『色の帯』シリーズを並行して制作している。

特別展示

## グループ幻触

GROUP GENSHOKU



飯田昭二「Half & Half」1968/2008年／40cm×40cm×40cm（ミクスト・メディア）竹、木、靴、鏡、顔料

「Half & Half」飯田昭二、「虚構の円空」鈴木慶則、「炭-茶の木」長嶋泰典

—— 竹の丸 ⑯

1960年代から70年代にかけて、日本のアートシーンに新たなフィールドを開拓し、近年ではモダンアートの殿堂〈MOMA（ニューヨーク近代美術館）〉で大きく取り上げられるなど、国際的にもその存在価値が高まっている「もの派」と呼ばれる前衛芸術。その「もの派」の一角にカテゴライズされてはいるものの、実は「もの派」の誕生に深い影響を与えたのではないかと推察される芸術家集団が、当時の静岡にいました。それが「グループ幻触」です。茶エンナーレでも、国内現代美術の変遷に関わったこのアートグループのすばらしさを知ってもらおうと、当時の作品を含む3点を特別展示。会場は掛川城北側の〈竹の丸〉です。この貴重な機会をお見逃しなく。

## 絵画、彫刻（立体）

1966～71年にかけて静岡県を拠点に活動した美術家集団。近年まで日本の美術界では忘れられた存在となっていた。2005年「もの派—再考」展（国立国際美術館）や、2012年のMOMAでの「TOKYO 1955-1970:A NEW AVANT GARDE」展など、国内外で評価が高まっている。



「FRAGMENTA」2013年／H 2000mm×W 1500mm×D 1300mm インフレータブルバルーン

## Noboru TSUBAKI

椿 昇

「BEFORE FLOWER」

—— 掛川市役所 22

圧倒的スケールを持つ、多肉植物のような不思議な形の巨大なバルーンが、地上6階の広々とした〈掛川市役所〉の吹き抜け空間にいくつも浮かぶ。その様にきっと、鑑賞に訪れた人々はまず驚嘆するでしょう。「ここにいると本当に気持ちいいね、と言ってもらえるような、シアワセになれる空間をつくりたいですね」と話す椿昇のバルーンアートは、どの芸術祭においてもシンボリックな輝きを放ちます。茶エンナーレでのテーマは「種」。自然のDNAが生み出す多用な造形や色彩にインスピライされてつくられていますが、作家自身はあえてイメージを押し付けるのではなく、どうこじつけらるかは見る人に任せたいと言います。「子どもたちがワクワクするような変な形が浮いてるので、ぜひ親子連れで来てもらいたいですね」。

### インスタレーション

一貫してユーモアあふれる巨大な玩具を中心としたアート活動。現代社会の抱える危機的な状況への警告を内包させてきた。また、瀬戸内国際芸術祭で二度にわたり地域再生アートプロジェクトのディレクターも努めている。



peppermint girl No.2 (写真作品)

## Noriko YAMAGUCHI

山口典子

「ある女給の物語」「NuDoll3」

—— 竹の丸 16

“見るだけで触感を感じるような作品”を目指して創作を続ける山口典子は、今回、掛川城の家老の屋敷であった〈竹の丸〉に、なまめかしい人型の立体作品を展示します。無数のウロコを身にまとった女性の造形は、彼女自身の身体を3Dプリンターで等身大に再現したもの。「純和風の部屋の中に、ひと目ではなにでつくられているのかわからない、体育座りした人型がぽつんと置かれている。隣の控えの間では同じ人型が、畳に膝を、窓際に両手をついて、四つん這いの体を反らせたようなポーズをとっている。存在感があると思います」。思わず触れたくなってしまう皮膚感を前に、作品に触れる事のできない葛藤が芽生えたとき、あなたはどうしますか？繰り返しますが、作品に触れてはいけません。

### インスタレーション

現代美術家／3Dスカラブラー。京都造形芸術大学非常勤講師を経て2017年よりDIGITAL ARTISANで3Dスカラブラーとして所属。皮膚感覚を呼び起こす作品を制作している。使用画材や技術等は固定していない。



「Sign・予兆 VII」2016年 ミクストメディア

## Noriko YANAGISAWA

柳澤 紀子

画業50年。柳澤紀子はそれさえも通過点と呼びます。膨大なときをささげてきた作家人生について尋ねても、彼女はやはり前を、未来を見つめています。「小さいころだけど第2次世界大戦をおぼえていて、 Chernobyl の事故があって、震災が起きて。やっぱり今生きてるんだから、考えるわよね。政治家ではないから声高に言うつもりはないけれど、今起きている問題やみんなが考えていることを、自分なりに逃げないで受け止めて、そこから何ができるのかという思いを、作品に込みたいの」。茶エンナーレでは、アメリカの思い出が色濃く残るニューヨークから帰国したばかりの80年代に、郷土のすばらしさを感じて女性の姿を描いたモノクロームの作と、「まだキレイだったころ」の遠州灘を描いた作の2点を、掛け軸にして展示します。

### 版画、掛軸

美術家。1940年静岡県生まれ。東京藝術大学大学院卒業。元武蔵野美術大学教授、文化庁派遣芸術家在外研修員として、ロンドン、ニューヨークで制作。第32回日本版画協会賞、東京ステーションギャラリー賞、第10回山口源大賞など。

「原風景への旅」「海」

—— 大日本報徳社 仰徳記念館 ⑯



「信楽壺」

## Taisuke TAKEHIRO

竹廣泰介

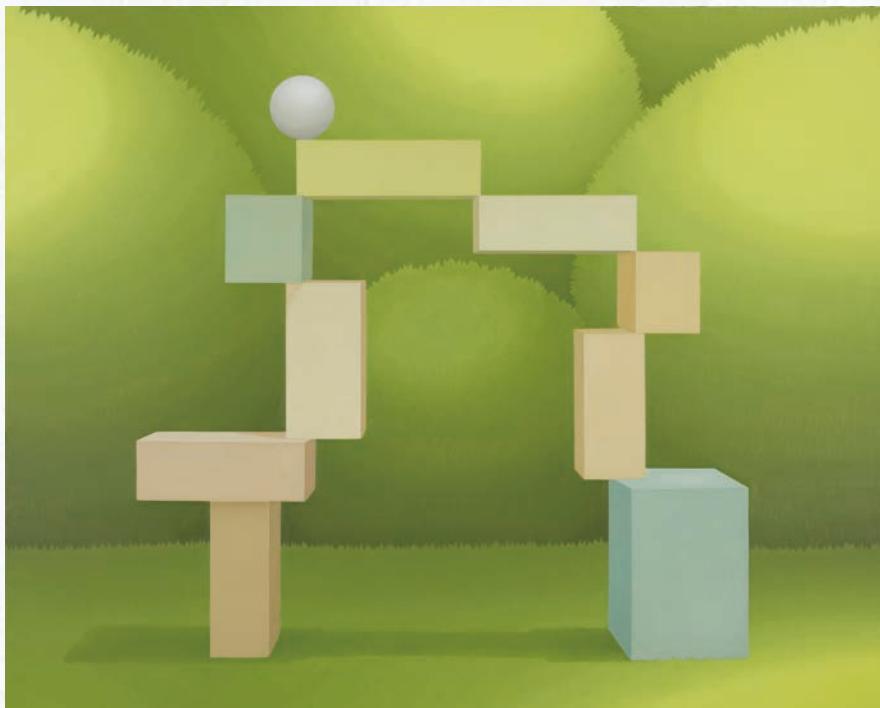
### 陶芸

1950年広島生まれ。北大路魯山人の弟子である渡邊一神らに師事し、1987年静岡県掛川市に窯窓独立、1990年穴窓による信楽を中心とする独自の焼きび陶の制作開始以後、展覧会を全国各地で開催し現在にいたる。

「遙かの想い 信楽窯変壺」ほか

—— 二の丸美術館 ⑯

風や光や四季の移ろいの中で、炎により土の魅力と可能性を引き出し、出来るだけシンプルに土そのもののカタチを立ち上げる。現代アートから陶芸の世界に身を投じた竹廣泰介の作品は、薪窓でただ土を薪で焼く“焼きび陶”というもともと素朴で原始的な技法を用いてくれられます。現代にあって、はるか昔の技法であえて作品をつくる意味を、彼はこう答えます。「作陶は自然に従い折り合いつながらの仕事。つくり手の美意識に近づけようとしても、いつも自然の力、自然の不思議の前では無力であり、一朝一夕で狙い通りのものはできません。社会がますますバーチャルになっていく中で土と火を相手にするものづくりは、私の中に眠っている原初の世界に立ち戻る行為かもしれません」。シンプルであるからこそ人間の根源的な感情を呼び覚ます。その可能性を、作家は模索し続けています。



「Block」2015年／162×194cm 油彩・キャンバス

## Takanobu KOBAYASHI

小林 孝亘

現代アートにあって、人や森、枕や器など、具体的なものを題材に描いてきた小林孝亘は、その理由をこう語ります「描かれているそれぞれの形を説明するためでも、それを取り巻く空間を描くためでもありません。目に見えるもの、形のあるものを手掛かりにして、目に見えない自身のリアルな感覚を描きたいのです」。今回は掛川城の天守閣に「枕」をモチーフにした絵画を展示。小林にとっての枕とは、生と死がひとつの形の中に内包されている普遍的なモチーフだといいます。「人は眠らなければ生きていけませんが、それを繰り返すうちに死へと至ります。枕の絵を通して、遙か昔に生きた人々の死生観に思いをはせ、現代の人々が、生きるということについて思いを巡らせる場になればと考えています」。

### 絵画

1986年より作品を発表。当初から一貫して具体的なものを題材に作品を作り、様々な展覧会に参加。作品は国際交流基金や国内外の大学および東京都現代美術館、東京ステーションギャラリー、など数多くの美術館に収蔵されている。

「Pillow」

—— 掛川城天守閣 5



「ねむりと死 -sleeping/Death-」2017年／Φ1330×150mm 檜の木にアクリル、オイル

## Takanori ISHIZUKA

石塚 隆則

「いまだ生を知らず いざくんぞ死を知らん」

—— 森林果樹公園 アトリエ 21

二宮金次郎像は日本のいたるところで見られますが、石塚隆則のつくるそれは、今までと明らかにちがうものになりそうです。「金次郎だけじゃなく、銅像はどこにでもあるけど、ほとんどが風景化しちゃってるじゃないですか。それを現代風にして、一石を投じるまではいかなくても、何かを感じてもらえたらしいなと思っています」。掛川には、二宮尊徳の教え「報徳思想」を全国に伝える総本山の大日本報徳社があります。「ずっと気になっていたテーマだったし、このまちならピッタリだ、と思いましたね」と語る作家は、森林果樹公園に2メートルを超巨大な金次郎像を展示。ポーズは金次郎でもその姿は、人間を含めたすべての動物の象徴ともとれる、彼が常々制作している擬人化された白い動物。それらが無数に絡み合う台座にも注目です。

### 彫刻

見えない「もの」や「こと」を可愛らしい動物キャラクターにしてドローイングや絵画、彫刻そしてインスタレーションなどで表現。コミカルで奇矯な動物達が織り成す作風が国内外で高く評価されている。

# Yoi KAWAKUBO

川久保 ジョイ

「200万年の孤独と果てしない円」

—— 大日本報徳社 報徳図書館 15



「二百万年の孤独」インスタレーションビュー／( c ) Kenji Takahashi, 2015

1920 年代に建てられた報徳図書館に展示されるのは、彼の親子4世代にわたる芸術作品群。作品タイトルは、「歴史は繰り返す」というメッセージとともに解釈できるガルシア・マルケスの小説、『百年の孤独』から着想を得ています。会場の入り口には、彼の祖父の描いたのどかな田舎道の風景画と、戦争について語った肉声のテープ。2階の広間には、父による宗教画と音声。反ナチスだったために辛苦を舐めたスペイン人の家を、写真家であった川久保ジョイが撮影した6点のフォトグラフ。そして、彼の息子が集めた石コロで再現した、AI が人間にはじめて勝った歴史的チェスの一手。それらを一通り鑑賞した後、また入り口にある祖父の作を見ることになる。私たちは一体何を繰り返そうとしているのか。歴史は円のようにつながっていきます。

## インスタレーション

スペイン生まれ。ロンドン在住。2003年筑波大学人間学類卒業。写真的存在論を探求した平面作品や、物語性を巧みに用いた多媒體ア・インスタレーションで特異的な歴史を普遍的な問題へと媒介して行く作品群を制作する。

# Yoshio OGAWA

小川佳夫

「誕生/Birth」

「あなたのくちびるは紅の糸」 /  
Your Lips Are Like a Scarlet Strand】

—— 中部電力掛川営業所ギャラリー 1



「誕生 / Birth」2016 / 162cm×130cm キャンバスに油彩

シンプルであるということは、器が大きいということ、なのかもしれません。小川佳夫の絵画作品は、そんなことを思わせてくれます。余白があるからこそ、そこに何かしらの感情を投影できるし、文字通り共感する“余地”がある。しかし彼の作品の余白部分に温もりや果てしない広がりを感じるのは、それがただの空白ではなく、たとえば白を、あるいはさまざまな色を、何十層にも塗り重ねて描いた色層だからなのでしょう。その絵画空間に入る線は、ペインティングナイフのストロークによって刻まれます。「テーマを決めて描き始めるわけではない。初めにあるのは、色のイメージ。題名は出来上がった作品を見て決めます」。パリでキャンバスに向かい続け、10 年を迎えるころに生まれた現在のスタイル。画家は「記憶の底の光景」を描いていると言います。

## 絵画

1962年静岡県藤枝市生まれ。1990年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻修了。1995年9月～2007年8月、アーティストビザを取得しパリ在住。2007年9月～東京在住

---

---

CHAPTER 7.5現代アートの  
おもしろさを語ろう

「現代アートって、よくわからない」

そう思っている人、けっこういますよね？

「わからないなら、プロに聞いてしまおう！」ということで、

かけがわ茶エンナーレの中心である総合プロデューサーと、

アートセレクション出品作家の2名に、

“どうすれば素人が現代アートを楽しめるのか”について、

大いに語ってもらいました！



現代美術作家  
Misa FUNAI



かけがわ茶エンナーレ総合プロデューサー  
Yumi YAMAGUCHI



画家  
Daisuke OHBA

### アートフェスの楽しさってなんですか？

—— まずは誰もが気になる「現代アートの魅力ってズバリなんなのか？」を、プロである皆さんに、それぞれご意見を伺いたいのですが……

**山口** それはまた壮大なテーマですねえ（笑）。

**船井** それだけで1時間終わっちゃいそう（笑）。

じゃあ、山口さん、サラッとお願ひします。

**山口** まずはその前に、今回の茶エンナーレについてお話ししてもらいかしら？

—— はい。

**山口** 最初にこのお話をいただいたときに、特徴を3つ考えたんです。1つは「外国人アーティストを呼ばない」。せっかく（位置的に）日本の中心みたいなところでやるのだから、海外の著名なアーティストではなく、今いちばん活きのいい日本人アーティストたちの作品をパン！と見せたいと。2つ目は、掛川は南北に広く、市民でも行ったことないエリアがけっこうあると聞いたので、「いろんな場所で展示

しましょう」と。

**船井** いっぱいありますよね、見どころが。お茶もおいしいけどそれだけじゃない。資生堂アートハウスとか、ねむの木こども美術館とか、掛川花鳥園に掛川城、古いお屋敷もたくさんあって。でも2日くらいあれば巡れるくらいのコンパクトさでギュッと凝縮されていて、距離感がちょうどいい。

**山口** そうね。だからぜひ一泊して見てまわってほしいです。掛川にはホントに文化的、歴史的に価値のある建物がいっぱいあるので、そこで現代アートを展示すれば、いろんな発見があるだろうし、市民の皆さんにもまちの価値、おもしろさを見なおしてもらえるかなと考えています。

—— 3つ目は？

**山口** せっかく茶産地なので「おいしい掛川茶を皆さんに飲んでもらう」ですね。掛川に来て、いい作品を見て、おいしい掛川茶を飲んで、お土産にお茶を買って帰る。その自然で美しい流れをつくりたいんです。非常にシンプルで、むずかしいことを

しようなんてまったく考えてない。

—— なるほど。会期中はお茶を飲める「お茶すぱっと」があちこちに設けられていますからね。ところで、静岡県西部でここまで大規模なアートフェスは初めてだと思いますが、大庭さんは地元出身者として、どう感じましたか？

**大庭** いやー、もうなんか不思議。僕はこの近くで高校生まで育ちましたが、この土地と現代アートがかけ離れている印象があるから、不思議としか言いようがない感覚です。今でも僕がアートをやってるというと大抵の人からは「むずかしい、わからない」って、シャットアウトされます。昔は、よく父からも抽象的な絵を描いていると、「なんでお前は巨匠日本画家みたいな絵を描かないんだ」「具象画は描かないのか」と言われましたね。

**山口** 「なぜ富士山を描かないんだ」と（笑）。

**大庭** そうです。地元ではわかりやすい絵は受け入れられても、いわゆる、現代アートは理解されないイメージがあったので、アートフェス、ホントに

やるの？ 挑戦的だなあ、って印象でしたね。

**山口** まあ現代アートは最初の方で「むずかしいでしょ？ 一目見ただけじゃわからないでしょ？」って思わせちゃったような歴史がありますからね。ただ四角い箱が置いてあってタイトル見たら「無題」って書いてある。で、どうすればいいんだ？ みたいな。でもこれからはもうそういう時代ではないと私は思っています。現代アートは生きている作家のものなんだから、アーティストが考えていることを、直接コミュニケーションをとって聞いてみたいわけです。船井さんは展示だけじゃなく、ワークショップをよくされていますけど、だんだん時代が変わってきたな、と感じたりしませんか？

**船井** 地域アートプロジェクトならではのものがありますよね。ふつうの展覧会は美術館に作品がかけられているだけで、作家と会うこともない。でも茶エンナーレみたいなアートプロジェクトって、事前に交流があったり、イベントがあったり、ワークショップしたり、地元の人に協力していただいて、一緒に

つくっていく。それがひとつの醍醐味になっています。

**大庭** そうですね。アートに興味がない人でも楽しめるような仕掛けや、作品を見たりまち歩きをしながら生まれるコミュニケーションこそ、アート鑑賞の醍醐味だと思います。それが作品に関する話題じゃなくても、お茶おいしいね、とか、掛川はこんなところだったんだ、なんて会話もいいですね。その交流を生む一つの要素として、アートがあるだけというか。

**山口** そうそう。そこはすごく肝心なところで、今は日本を含めてピエンナーレ、トリエンナーレといった現代アートフェスが世界中で行われていますけど、いろんなところを見ていて思うのは、やはり、観客とか地元の方が置き去りにされているのはダメなんですよ。まずは純粋に楽しんでもらって、作家と交流してもらって、おもしろいなと感じてもらう。その場にアートがあることで発生したコミュニケーションから“新しい何か”が生まれることが、芸術祭においていちばん大事なポイントではないでしょうか。

## アートは感じるもの？考えるもの？

—— ふだん馴染みのない人たちが現代アートにふれる上で、「こうすればより楽しめるんじゃないかな」、みたいなアドバイスはありますか？

**山口** アートは“問い合わせ”なんです。答えではなく問い合わせなんですから、観る人は考えないとダメなんですね、アートって。それも“専門家の批評に流されず、まず自分がおもしろいかどうか考える”。それを今回は皆さんにも、ぜひやってほしいなと思っています。

**船井** 私は若いころから伝統的なものが好きで日本画をずっと勉強してきたけど、あるときそれはその時代の人がその時代の感覚で描いたからすばらしいのだと気付きました。世界には今しかない動きがあって、現代を生きる私たちしか感じられない感覚があります。そういうものを表現していきたいなと

思って、歴史を踏まえつつ新しい感覚を表現する、今のような現代美術の作品をつくりはじめたんです。

**山口** この件に関しては以前、大庭さんがすごいいお話をされていましたよね。

**大庭** はい。たとえばスポーツだったら、そのゲームのルールを知ってるから見ていて楽しめるんじゃないかな。アートもそれにすごく近いなと思って。サッカーがすごく好きな人は監督による布陣のちがいとか、細かい攻防とか、プレーの合間にあるものを楽しめますよね。それはルールを知っていて、今までにたくさんのゲームや選手を見てきたから、ちがいがわかるし、考えることができる。でも素人は、シュートして点が入らないと楽しめない。アートも写真みたいに美しく描けてるのはわかるけど、そうじゃないといいと思えない、楽しもうとしない。つまり自分にわかりやすい部分しか見てなくて、それって現代アートの本質とはちょっとちがう。シュートは、ゲームを構成する要素の一部でしかないようにな、写実的で美しいかどうかも部分的な見方でしかないんです。一般的には「上手」、「きれい」などの表面にしか反応してないんですよね。

—— 確かにそうかもしれません。

**船井** まず大前提として、そっくりに描くと言うのは簡単んですよ。美大に入る時点で写真のように描く技術を徹底的にやるので。写真のようにやるということは全員同じ絵になるということです。だからそこから自分のオリジナリティーとの戦いが始まる。写実がわるいと言ってるわけではないんですよ。写実でも人の内面を揺さぶるような、すばらしい作品がたくさんありますから。

**山口** でも、現代アートを「わからない」で片づけてしまうのは、すぐもったいないんですよ。

**船井** そうですね。「アートってわからない」という人が、なんでわからないかと言うと、大半は今まで自分が見たことないものだからっていう理由だったりしますよね。でも 現代アートは「見たことないもの」をつくっているんです。だから今までとちがうのは当たり前。逆に見たことないものを見るに現代アートの楽しさがあるんですよ。作品を見て

感動することもあれば、そうじゃない事もある、でも、なんでこれつくったんだろう？とか、考えてみることで、自分の世界が広がる事もあります。

—— ということはやっぱり、アートを鑑賞するときは考えないとダメなんでしょうか？

**山口**もちろん、見たままに感じる、とか、考えないから本質が見える、っていう意見を否定しているわけじゃないんですよ。今お話ししているのは、そこからもう一步踏み込んだ考え方ですね。

**大庭** 当然、わかりやすいものがあつてもいいと思いますけれど、鑑賞において「わかることを目的とする」のは誤解だと思うんです。自分にわからない作品を楽しめないのは、根底に「理解しないといけない」という義務感が働いているからじゃないでしょうか。謎は謎のままに、その謎を考える時間を楽しむのがアートの魅力だと考えます。僕自身も昔は理解出来ないものを毛嫌いしていたんですね。でもそういったことに対して自然体で向き合う事によって、本当の意味でアートがおもしろくなったり。アートを通してのごとの本質をつかむとか考える行為は、こんなにも人生を豊かにするのかと。

**山口** 考えることを誰かにゆだねてしまうのはもったいないし、相当危機的な状況ですよね。人が言うならそれでいいや、というのは一生懸命考えて、理解して、判断する能力を取り戻さないと、これから

先、非常にまずいと思うんです。現代アートというのはそういう意味でうまくできているんですよ。アーティストって一人ひとりがうし、それぞれ時代に敏感なセンサーみたいなを持っているから、それを作品に表してくる。それは本当に、オリジナリティーにあふれた世界です。茶エンナーレのアートセレクションでは、まさに日本の最前線で戦っているアーティストを厳選して20人選んでますので、その方たちの作品を生で見て、作家と話して、活用してもらいたいんですね。そうすると育児とか教育とか家庭の不仲とか、行き詰ったり煮詰まつたりしている人たちがぼーんと、ちがう世界まで飛んで行けるかもしれない。目の悩みもね、束の間は忘れられるような楽しみ方ができるかもしれないし、何かが変わるべききっかけになるかもしれない。それくらいチカラのあるアート作品です。1ヶ月間は掛川に来れば何回も見れますからね。そしてきっと、作品がなくなったときに気付くと思うんです。「ああ、あそこにあの作品があったよなあ」って。そういう意味では、見る見ないは自由んですけど、せっかくのチャンスなんだからぜひ見てほしい。そして作品を見た人たちや掛川の人たちに、すこしでも新しい視点を芽生えさせることができたなら、このイベントは成功なのかもしれませんね。



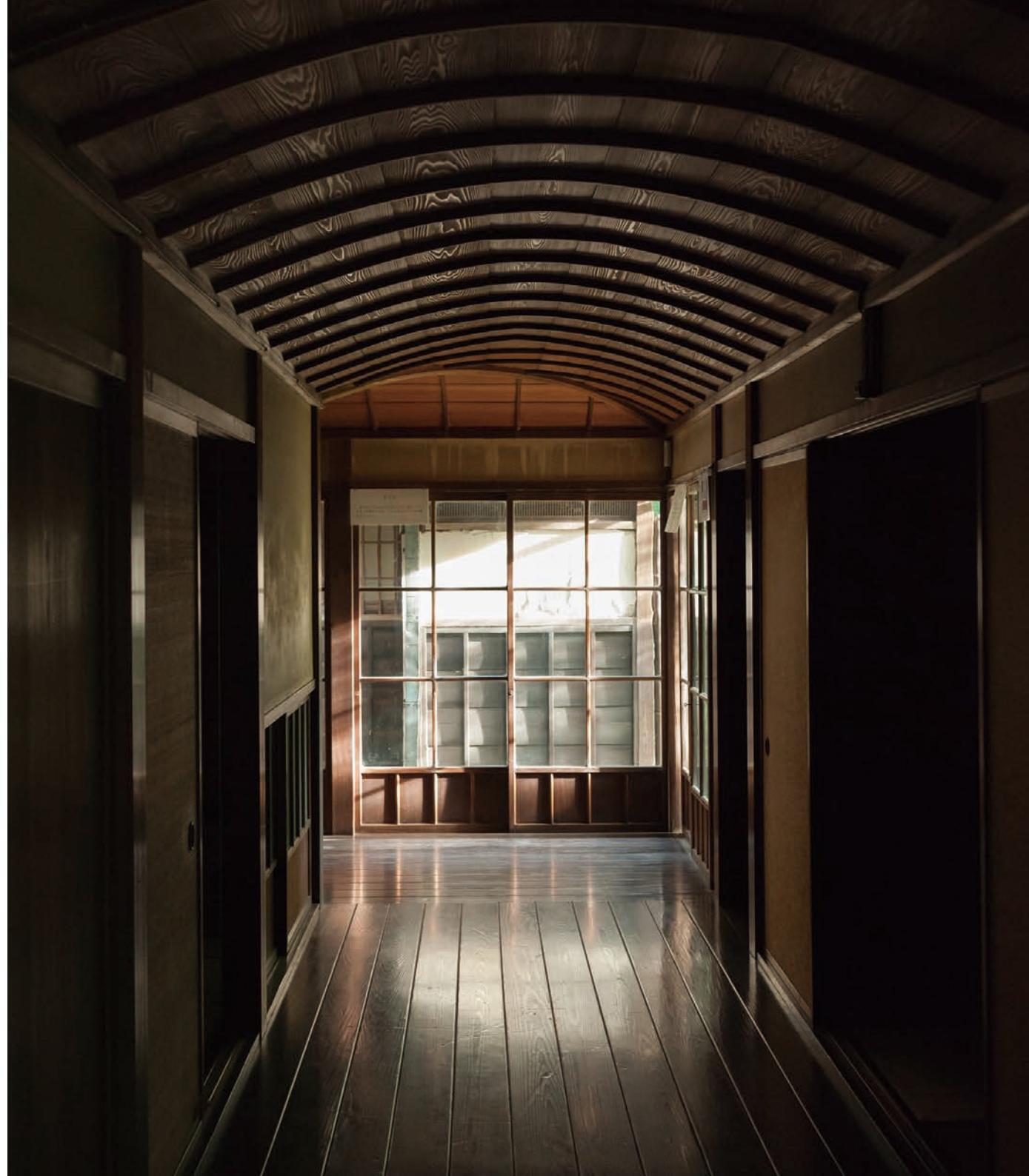
# MINNA-NO MUSEUM

みんなのミュージアム

かけがわ全域がミュージアムに！

まちと市民とアーティストが  
一体となって創る  
壮大なアートプロジェクト

「みんなのミュージアム」は、掛川市全域を特色的  
ちがう 6 つのエリアに分けて催される壮大なアートプ  
ロジェクト。「まちなかエリア」、「東山・日坂エリア」、  
「大東エリア」では、3 名のアートディレクターの選  
りすぐったアーティストたちが、それぞれの地域のカ  
ラーを生かした作品を展示。「横須賀エリア」、「原  
田・原泉エリア」、「五明エリア」では、プロの作  
品だけではなく、来場者の目線に立った地域住民  
によるアートイベントも開催。すべてのエリアでアート  
セレクションを含む、プロのアーティストが参加するイ  
ベントも多数。お茶と文化と歴史と人に出会える、  
体験型ミュージアム（美術館）へ、ようこそ。



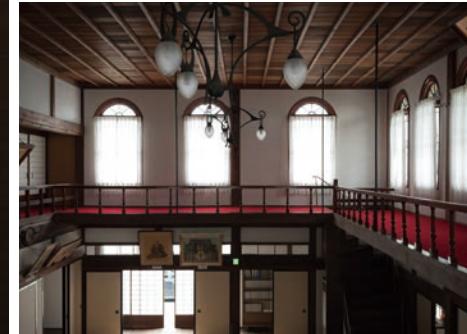
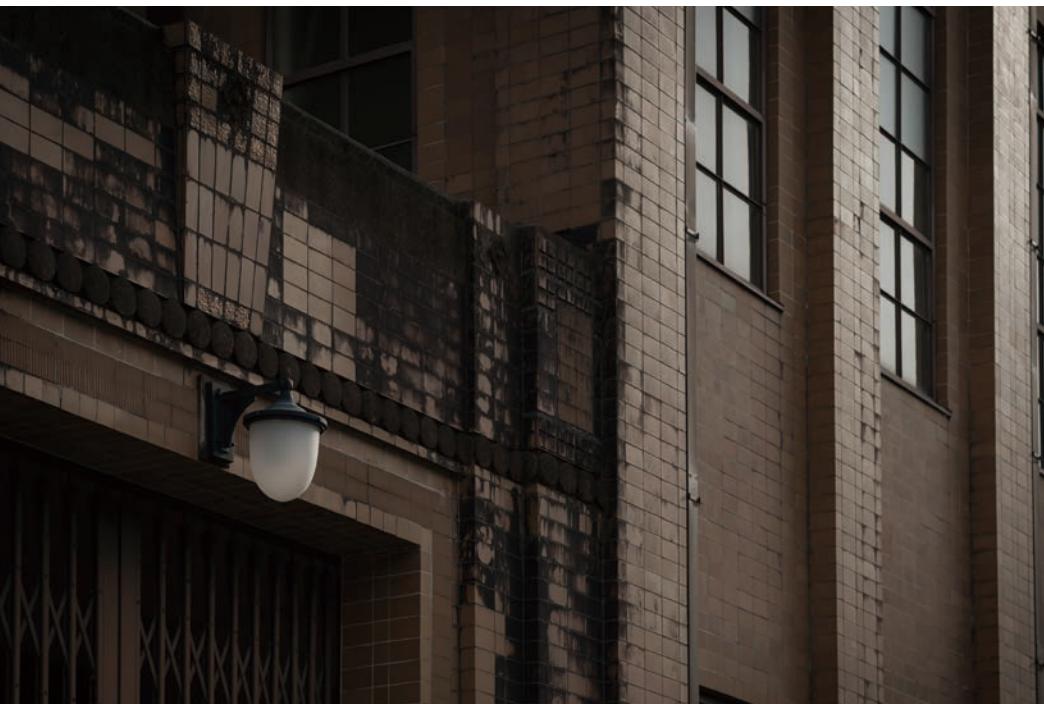
# まちなかエリア

MACHINAKA

JR 掛川駅から掛川城に向かって、北へ真っ直ぐ伸びるわずか 1 キロ足らずのストリートを歩くのは、時代を遡るタイムトラベルのようだ。駅の北口にある彫刻家ジュン・スズキの巨大なモニュメントの脇を抜け、ほどなくすると見えてくるのは、平成の建物らしいマンションと商業施設が一体となった〈we+ (ウィタス) 138〉。そこから少し北へ行くと、今度は昭和風情たっぷりのアーケード街が顔を出す。さらに歩を進めて、空がひらけると見えるのが掛川城。その周辺は〈大日本報徳社大講堂〉をはじめ、主に明治期に建てられた貴重な建造物がいくつも軒を連ねる。掛川城のお膝元にある〈掛川城御殿〉は江戸

時代から残る文化財。傍らの〈二の丸美術館〉にも、当時を偲ばせる細密工芸品が数多く収蔵されている。各時代のシンボリックな建物と現代アートの融合は、驚きと感動を与えてくれるだろう。そこから少し西へ外れた場所にあるのが、山崎家という大商人が住んだ〈松ヶ岡〉。ディレクター赤堀マサシ氏がキャスティングした自身を含む 11 名のアーティストが、広大な敷地を誇る旧家に、アートで新たな息吹をもたらす。

現代アートと掛川が誇る日本建築の時を超えたコラボレーション



DIRECTOR VOICE | 赤堀 マサシさん

歴史あるこの建物をまったくちがう空間にしたいなと思い、タイプの異なるアーティストを自分の目で見て選びました。これをきっかけに、松ヶ岡を含め市全体が活気づけばいいなと思います。

# MACHINAKA AREA DIRECTOR PROGRAM

まちなかエリアで展示する、エリヤディレクター赤堀マサシ氏が厳選したアーティストをご紹介。

● 作品展示 ○ イベント・ワークショップ



## 23 赤堀 マサシ

Place | 松ヶ岡



カラボダンス

現代の子どものおもちゃであるカラーボールと、朽ち果てていくブリキなどを組み合わせた、躍動感に満ちた作品を松ヶ岡の中庭に展示。ポップな明るさと古いものとの対比は、さまざまなメッセージを考えさせられる。

## 25 大澤 容子

Place | 松ヶ岡



ゆうに30畳はあろうかといふ少しうす暗いお勝手場(台所)を、白に染色した和紙などを使って、軽やかでさわやかなイメージを与える空間に変える。

## 26 久保田 優子

Place | 松ヶ岡



地球からの贈り物

地球からの贈り物シリーズ。すべてのものは地球から生まれていかされているという思いを表現。サイケデリックなあざやかな色合いがもたらす和風建築とのミスマッチが楽しむ作品。

## 27 清水 久美子

Place | 松ヶ岡

写真家。浜松市出身。自分の生まれ育った田舎の風景と重ね合わせるような想いで、「地球の桃源郷」とも呼ばれるパキスタン・フンザを撮り続けている。杏の花が咲き乱れる美しい季節に撮影したフンザの写真を展示。

## 28 鈴木 真弓

Place | 松ヶ岡



偶然ではない

その場所からインスピレーションを受け、まるでどこかの惑星のような塊をつくる。それをいくつも室内に置くことで、不思議な雰囲気を生み出す。作品テーマは「時の重なり」。

## 29 濑川 明子

Place | 松ヶ岡



Voice of Grammanmare

人形作家。  
When the Breeze Touches  
My Cheek.  
Open Ocean Lashes kiss.  
Breeze whispers.....  
"What?"

## 30 中島 敬子

Place | 松ヶ岡



ときのまなざし

陶芸作家。花器ではあるが、人体の一部などが表現されているオブジェのような焼き物を国内外で発表。それらを用いてインスタレーションを行う。

## 31 中村 昌司

Place | 松ヶ岡



人間の命の色でもある「あかいささふね」を、松ヶ岡庭園内に1万艇ほど展示。また会期中は松ヶ岡に所有されたいた釣舟に水を張り、来場者のつくる「あかいささふね」を次々に浮かべていく。



ふじのくに せかい演劇祭2015

## 32 前澤 妙子

Place | 松ヶ岡

画家。子ども心を呼び覚ますようなファンタジックさと、何かを思われるシリアルスガが合いまった、独創的な世界観を紡ぎ出す。国内外でアートフェアへ参加。受賞歴多数。



いのり (河瀬和世(和紙作品)とのコラボレーション)

## 33 山内 啓司

Place | 松ヶ岡

映像作家。真っ暗な米蔵の中に、プロジェクションした映像作品を展示。近年は宇宙や銀河をテーマに、ダンスや音楽など多ジャンルとのコラボレーションも。写真はパリのノートルダム教会での展示模様。



# ENTRY PROGRAM

● 作品展示 ● イベント・ワークショップ  
※各施設の詳細はP66をご覧ください。

**34** 10.21sat-31tue 9:00-17:00(最終日15:00まで)

世界農業遺産茶草場農法の里～四季の彩～

— 中村隆哉

東山の自然の素晴らしさを、写真を通して広く世界へ発信。

✿生涯学習センター

**35** 10.21sat-11.19sun



茶積庵(ちゃつみあん)

— 森藤 文華(2.5architects)

お茶を飲んだ後に出来る茶殻と掛川の土によってつくられた「お茶の干しレンガ」で構造物を製作し、会期の間の憩いの場所に。

✿掛川市役所

**36** 10.21,22,28,29 11.5,11,12,18,19 10:00-15:30 要申込

掛川茶入り！陶器の箸おきをつくろう！

— Ivy Pottery

茶葉から作った釉薬「掛茶釉」を利用して「箸おき」を制作。

✿Ivy Pottery(上張920)



**37** 10.21,22,28,29 11.4,5,11,12,18 11:00-14:00

掛川のためにつくられた七つの現代アート茶道具と現代アート茶会

— NPO法人 掛川の現代美術研究会

現代アート作品による茶と作家との語らいを楽しむ。

✿大国屋本店(駅前5-12)

**38** 10.28sat, 11.12sun 13:30-15:30 要申込

『茶』びねすワークショップ

— おん・ぱーぱす・コーチング

お茶の味、香りを楽しみつつ描き、自分の「幸せ」を取り戻す時間。

✿中央図書館

**39** 10.28sat 15:00-20:00

Kakegawa Band Festival

～茶グデーナイトフィーバー☆ハロウィン～

— カケガワバンドフェスティバル実行委員会

音楽によるおもてなしを目的に、20団体がパフォーマンス。

✿駅前通り

**40** 10.29sun 16:00- 要申込

乾杯！プロジェクト～掛川茶と焼酎のおいしい関係～

— あいさプロジェクト

さまざまな掛川茶と焼酎のお茶割りを体感。

✿掛茶料理むとう(上張830)

**41** 11.3fri 9:30-14:00

かけがわチョークアートフェスティバル&おかみ茶屋 -茶エンナーレ-

— 掛川おかみさん会

道路をキャンバスにチョークを思うまま振るって町が「お茶色」に。

✿駅前通り

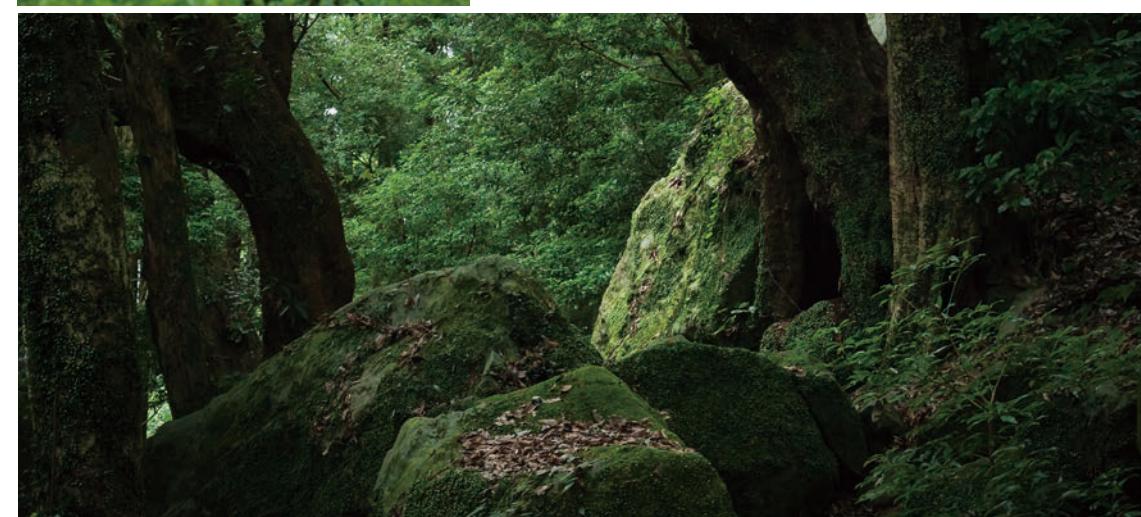
**42** 11.3fri 18:00-20:45

春と秋、満月の饗宴「第八夜 月夜の煎茶会」

— 掛川茶振興協会

春の満月の夜に摘まれた新茶を秋の満月に嗜む煎茶会。フルートとピアノの演奏で幻想的な雰囲気。

✿掛川城御殿



## 東山・日坂エリア

HIGASHIYAMA・NISSAKA



## 茶産地と宿場町の風景が 現代アートと融合する

東海道五十三次 23番目の宿場町である〈日坂〉。世界農業遺産に認定されている「茶草葉農法」が根付く〈東山〉。となり合いながらもまったくちがうアイデンティティを持った2つの地区から成るのが東山・日坂エリアだ。

〈日坂〉がユニークなのは、街道沿いに並ぶ現代風のふつうの家々までもが軒先に〈畳屋〉〈とり屋〉

〈丸屋〉〈高木屋〉などなど、天保のころの屋号を木製看板で張り出していて、道行く人にかつての賑わいを感じさせてくれるところだ。すべてが古い日本家屋の街道もいが、想像力を掻き立てるという意味では、こちらの方がおもしろいかもしれない。

茶エンナーレでは、旅籠屋であった〈川坂屋〉や〈萬屋〉(よろずや)、日本最初期の郵便局も務めた商家〈藤文〉といった、幕末の風情を醸す建物の中で、空間を生かしたインスタレーションを中心に展示。一方〈東山〉でも、ファンタジックな森林に包

### DIRECTOR VOICE

夏池 篤さん



東山・日坂エリアは、茶産地としても、宿場町としても歴史のある土地です。この地とのマッチングを考え、絵画などの平面ではなく、空間そのものを芸術作品にできるアーティストを厳選しました。

まれた粟ヶ岳山頂での作品展示や、茶業組合でのライブパフォーマンスなど、他所では決してみられない、宿場町や茶産地の特性を活かしたアートプログラムで目白押し。ディレクター夏池篤氏が掲げた「すべての作品が、この土地と何らかのかかわりを持つ」というコンセプトは、どれほどバラエティに富んだ作品を生むのか。乞うご期待。

HIGASHIYAMA  
NISSAKA AREA

# DIRECTOR PROGRAM

東山・日坂エリアで展示する、エリアディレクター夏池篤氏が厳選したアーティストをご紹介。

● 作品展示 ○ イベント・ワークショップ

### 45 今井 瑠郎

Place | 萬屋 1階

1980年代にそれまで野外アートの主流だったモニュメント型ではなく、そこにある環境を使った現代風のインスタレーションの展示を中田島砂丘ではじめて企画したアーティスト。庶民に愛されたとされる旅籠〈萬屋〉の奥の間で、大小さまざまな「球」を中心とした作品を展示。宿場町の持つ歴史に潜む闇を表現する。



写真作品「青のミステス」

### 43 大杉 弘子

Place | 事任八幡宮境内、みそぎ場



サファイアの板に刻まれた神の筆跡

「書」の領域にとどまらず、絵画表現としてのおもしろさを追求する彼女の作品は、書であると同時に美術である。今回は事任八幡宮の杉の巨木数本を布でくるみ、ダイナミックな書の作品を描く。

### 44 渡辺 英司

Place | 川坂屋 2階、かえでや



写真作品名「名勝の庭」

コンセプチュアルアーティスト。たとえば植物図鑑から写真を切り抜き並べることで、分類ごとに区切られていたもののからの解放や自由などを表現してきた。固定的な価値観を解きほぐし、新たな視点で提示する。

### 46 山本 浩二

Place | 萬屋 2階



写真作品名「フロギストン炭手前」

現役の僧侶アーティスト。その土地に合わせた作品をつくる。今回は〈萬屋〉の2階に、実際に修行中に使用した応量器をモチーフとして炭化と鋳造により制作した作品を展示する。炭と火、茶のつながりを表現する。

### 47 田中 俊之

Place | 藤文 2階



バズ/buds

ガラスによる彫刻を得意とする作家。茶エンナーレでは、日坂宿近辺に語り継がれる伝説や、この地の伝統をガラス作品で表現。かつての商家〈藤文〉の2階に展示する。

**48 夏池 篤**

Place | 藤文 I階



〈藤文〉の座敷や土間に、光るお茶の木を並べたインスタレーション。ずっとつながってきた茶産地と東海道宿場町の持つ歴史、そしてその記憶を感じさせるような、不思議な空間をつくる。

呼吸・あの頃

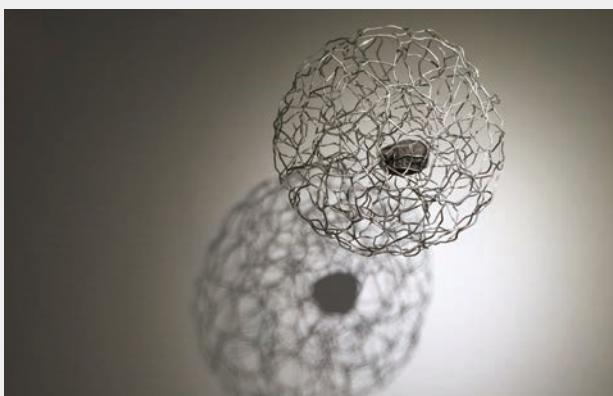
**50 54 岡本 高幸**

Place | 山英倉庫 東山地区



Land-Marking Project vol.1&amp;2 - The sofa of tea plant -

今回彼らは東山で2週間の滞在制作を決行。日坂の山英倉庫に展示されるのは、この地にバルーンを浮かべ空撮したアート作品。東山の高台には、土を掘り、土嚢に詰め、美しい茶畑景色を眺められる巨大なソファを作製。



写真作品名「The universe」

**49 松野 崇**

Place | 藤文 蔵



写真作品名「面」

フィルターやレンズを使って対象をゆがめるなど、画像処理ではなくアナログな手法で芸術的な写真作品を生み出す。今回は建物とともに、年を重ねた「人」を幾人か撮りながら、地域の中の時間を表現する。

**51 三上 俊希**

Place | 日坂宿本陣跡



写真作品名「呼吸X」

真っ赤な球体の連なりが、人間の呼吸のように空気を出し入れしながらうごめくバルーンアートを、今はグラウンドになっている〈本陣跡〉に展示。芸術祭にふさわしい、子どもでもわかりやすく楽しめる作品。

**52 Seo Sung Bong**

Place | 萬屋2階、日坂宿本陣跡

韓国で最も南端に位置する〈済州島〉より、茶エンナーレ唯一の外国人アーティストとして参加。木の枝など、自然の造形物を人の手によってコントロールしたインスタレーションを、日坂宿各所に展示する。

**ENTRY PROGRAM**

● 作品展示 ○ イベント・ワークショップ  
※各施設の詳細はP66をご覧ください。

**53 10.21sat-11.19sun****刀耕火種 (とうこうかしゅ)**

— 木下琢朗

栗ヶ岳に広がる土地の物語を背景とした展示。この森が育んだ檜1本を使い、森のタネとして17個制作。

✿栗ヶ岳山頂付近

**58 11.11sat 16:30-****TIMEEMIT LIVE**

in 東山

— TIMEEMIT



ライトペインター、多目的打楽器演奏者、タップダンサーの3人のアーティストがお茶をテーマに茶工場や茶畑を舞台にパフォーマンス。

✿東山茶業組合

**55 11.4sat-19sun****草木禽獸 (そうぼくきんじゅう)**

— 木下琢朗×HAL×東山地区茶生産青年部

茶草を利用したインスタレーション。期間中に草刈り～制作を実施、展示する。(11/4,18の2日間 19:00～21:00)作品に多様な生物の躍動をプロジェクションマッピングで映し出す。

✿東山地区

**56 10.21sat-11.19sun**

~縁側カフェではっこり・秋色時間~

**五感で感じる!栗ヶ岳山麓 里山めぐり**

— 時ノ寿の森クラブ/旅ノ舎 (たびのや)

選べる2つの里山バスポートや各種プログラムの体験型観光プラン。  
縁側カフェや郷土料理でおもてなし。

✿日坂、東山、倉真地域

**57 10.22sun 10:30-, 11.18sat 13:00-****茶遊プロジェクト featuring 日坂・東山**

— Tea of the Men

実験的な茶会、きっちりとした茶会、ゲリラ的な茶会など、抹茶、煎茶問わず茶の可能性を遊びように探求。

✿日坂、東山

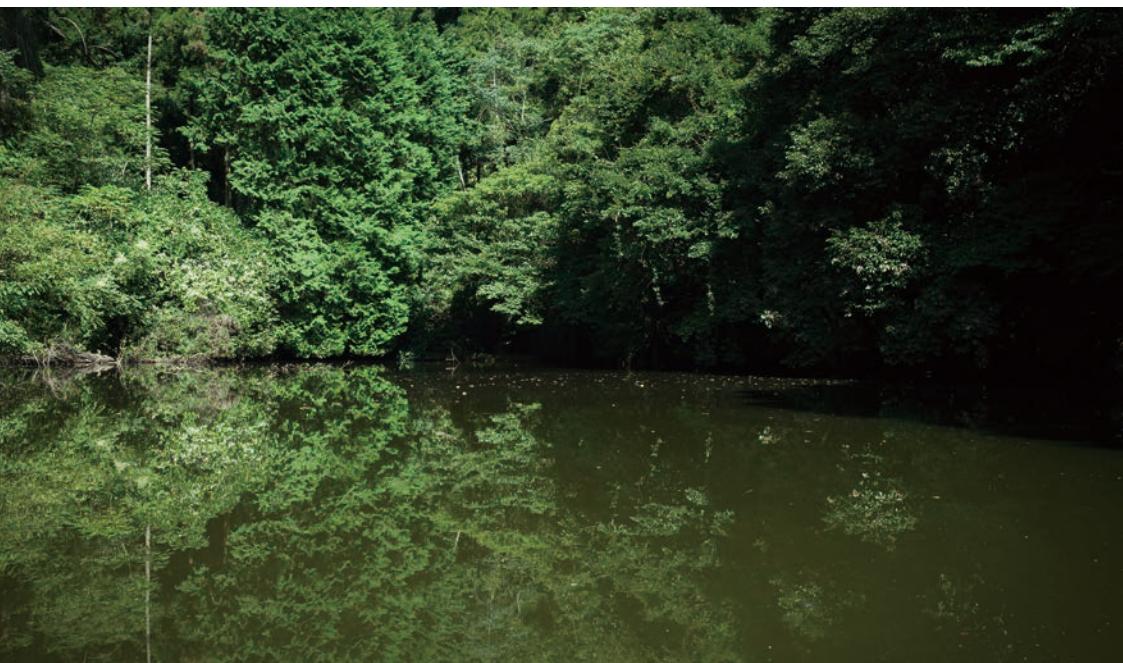
**日坂エリアMAP[A]****東山エリアMAP[B]**

各所: 56, 57



## 大東エリア

DAITO



体験型のアートで、  
文化と価値観を見つめなおす

掛川には自然と共生するスピリッツが時代を超えて受け継がれている。「溜池谷田文化（ためいけやだぶんか）」もその一つだ。大きな川のない環境ゆえ農業用水を確保するために、谷にたくさん溜池をつくってきた風習をそう呼ぶ。静岡県内で700を超える溜池のうち、30%以上は掛川にある。静かに揺らめく池を眺めるのは、素朴さを見つめるという点において、どこか茶の湯の精神と通じるところがある。〈高天神城跡〉にあるちいさな〈下池〉も、1周すれば徒歩で30分はかかる〈小笠池〉も、そんなことを思ってくれるのは茶産地の池だからだろうか。茶エンナーレではどちらも、森林の中に佇む環境を生かした現代アートで彩られる。大東エリアではそのほかにも、貞永元年（1232年）に創建したと伝わる〈貞永寺〉。キュリー夫人や世

DIRECTOR VOICE | 平野 雅彦さん



来場者も地元の人も、現代を生きる作家とぜひ直接触れ合ってください。「現代アートってよくわからない、あなたの作品はよくわからない」といった質問を、遠慮なくぶつけてください。アートにふれるきっかけになればうれしいです。

界初の女性医師エリザベス・ブラックウェルと並び称される、東京女子医科大学を創設した掛川出身の偉人、吉岡彌生の生家。大小ホールを兼ね備えた〈文化会館シオーネ〉が展示会場となる。ディレクターを務めた平野雅彦氏は言う。「コンセプトは、『参加する、対話する、会話する』。今回はただ展示するだけでなく、参加アーティスト全員がアーティストトークなどをおこないます。どんどん参加してもらって、いろんな新しい価値観が芽生えてくれればいいなと思います」。

# DAITO AREA DIRECTOR PROGRAM

大東エリアで展示する、エリアディレクター平野雅彦氏が厳選したアーティストをご紹介。

● 作品展示 ○ イベント・ワークショップ

## 59 音羽晴佳 | Place | 吉岡彌生記念館 生家



日常生活のなかで人が使用した記憶を内包する素材を用いたインスタレーション。他者との曖昧な境界線や変化し続ける距離感を、家を抜ける風によってそれぞれの素材が離れ、近づき、時には干渉し合う様子で表現する。

I know that you were here.

アーティストトーク 吉岡彌生記念館2階

[ 11.3 fri 13:30-14:30 ]

## 61 happy unbirthday+戸井田雄

| Place | 文化会館シオーネ

穴の空いた人工池にペットボトル約1万本を敷き詰め、日常的だけど非日常な空間を制作する。そこではhappy unbirthdayとワークショップ参加者により、静ひつな時間が展開される。



新聞紙人間

間 / Dusk

ライブパフォーマンス シオーネ入口ウォーターコート 要申込

[ 10.21 sat-22 sun 11:00~12:00, 14:00~15:00 ]

アーティストトーク シオーネ小ホール

[ 10.22 sun 15:30~16:30 ]

## 62 前田直紀 | Place | 貞永寺

陶芸家。セラミックコミュニケーター。「魂の救済」をテーマに、魂のカタチをした陶芸作品を貞永寺の庭一面に展示。ライブパフォーマンスでは、参加者が一緒にやって芥川龍之介『蜘蛛の糸』を朗読、その中で前田が作陶する。

ライブパフォーマンス  
+アーティストトーク 貞永寺

[ 11.5 sun 16:00-17:30 ]



## 63 奥野晃士+佐々木裕一

| Place | 貞永寺

劇団「SPAC」の現役俳優である奥野晃士が、掛川とお茶にまつわる話を創作。それを動読（動きながら読む）しながら、「ピアノの即興詩人」佐々木裕一が即興演奏を奏てる。一夜限りのパフォーミングアート。呈茶あり。

歴史演談 貞永寺 要申込

[ 11.18 sat 16:00-17:00 ]



## 60 大橋史人

| Place | 高天神下池



クマガイソウ

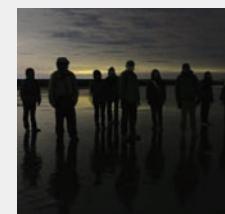
一級建築士。アーティスト。『心地よいと感じられる場をつくりだすこと』がテーマ。詩情にあふれた高天神（下池）に、水上にせり出した「おとずれ」に耳を傾けるための「音連庵」を設置。特別な時間の流れる空間をつくる。

アーティストトーク 大東図書館2階会議室

[ 11.4 sat 13:30-14:30 ]

## 64 中野 純

| Place | 小笠池



海辺のミッドナイトハイク

闇を歩く体験をつくり出す体験作家。〈小笠池〉の周辺をナイトウォークし、池面に浮かぶ星々のやわらかさや生き物たちの息遣い、大地の温かなどを感じ、眠っていた五感を呼び覚ます。視覚情報に頼る現代を考える。

アーティストトーク 上土方コミュニティセンター [ 11.11 sat 16:00-17:30 ]

・ナイトウォーク+モーニングウォーク 小笠池（小笠池駐車場集合）

[ 11.11 sat 18:30-20:00, 11.12 sun 9:30-11:00 ] 要申込

# ENTRY PROGRAM

● 作品展示 ○ イベント・ワークショップ  
※各施設の詳細はP66をご覧ください。



65 11.3 fri-19 sun

掛川で生まれたモノたち  
— 徳川陶房

掛川に移住してきた徳川浩・徳川小牧の2人が、この地で感じたものを形にした作品を中心に展示。

大東図書館 國土ゆかりの部屋

66 11.3 fri-12 sun 9:30-15:30(ワークショップ) 11.3 fri-19 sun(展示)

つながる ~ 1枚のはがきから ~ — 尾崎弘子

お茶にまつわる景色や思い・好きな言葉などを自身や大切な人に宛ててハガキに描き大きな作品に。

大東図書館 生涯学習ホール

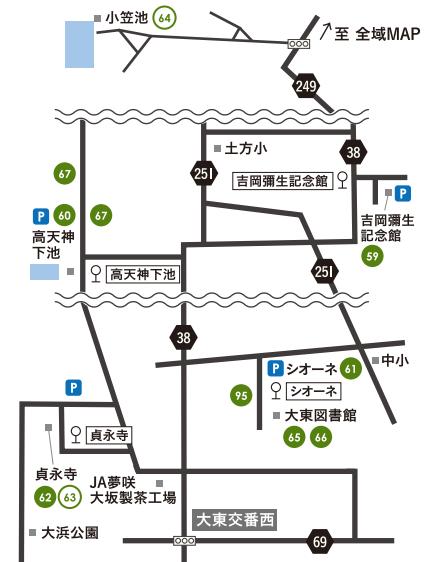
67 10.21 sat-11.19 sun

をとめ  
インスタレーション  
— モコモコグランド アートプロジェクト

万葉集の歌を手掛けたり、柿本人麻呂と土方娘子の愛を紐解き、乙女の故郷である土方地域で顕在化。その存在とエピソードをアートで伝える。

土方地区 JA夢咲 大坂製茶工場

## エリアMAP





# 横須賀エリア

YOKOSUKA

下町風情とアートの息吹  
ちいさなまちの、  
ぜいたくな芸術祭

横須賀城の城下町であった〈横須賀エリア〉は、ごくちいさいまちながら、町内でつくられた「さしつせそ（砂糖、塩、酢、醤油、味噌）」が今もすべてそろう稀有なまちだ。車がようやくそれ違えるほどの街道を歩けば、江戸創業の割烹旅館にはじまり、造り酒屋、味噌屋、醤油屋、足袋屋、麩菓子屋、

鳳屋、陶器店、提灯店……。次から次に趣のある商店があつて、創業 100 年、200 年なんて老舗もちろん。日がな一日散策していくても飽きが来ない。道行く人と商売人とが手を振り合い、笑顔で「おーい」と挨拶を交わす。それも 1 人や 2 人ではない。町内を歩くのは皆知り合いとばかりに声が飛ぶ。その光景は、向こう三軒両隣のご近所付き合いが暮らしの中でナチュラルに息づいているのだと教えてくれる。

横須賀は以前からアートと深いかかわりを持ってきた。住民主導ではじめた芸術祭「遠州横須賀街道ちっちゃな文化展」は 19 年目を迎える。今年は

茶エンナーレのオープニングに合わせた 10 月 20、21、22 日に開催。約 70 か所の会場に 100 点近くの芸術作品が展示され、日頃は静かな城下町も、この 3 日間ばかりは数万の人で賑わう。アートをじっくり鑑賞するもよし、城下町散策を楽しむもよし、何とも贅沢なイベントだ。茶エンナーレの会場はかつての廻船問屋〈清水邸本宅〉を中心で、ちっちゃな文化展にも参加する 14 名のアーティストが出展。掛川の南端だが、訪れる価値は十分にある。



# ENTRY PROGRAM

● 作品展示 ○ イベント・ワークショップ  
※各施設の詳細はP66をご覧ください。

<b>68</b> 10.10 fri-11.14 tue <b>inkle tinkle</b> — あかほり このみ  まるくて、かわいくて、どくのある、 フィギュアをつくっています。 ◆清水邸本宅 北蔵	<b>69</b> 10.27 fri-10.31 tue <b>ウッドカービング岩崎正</b> — 岩崎 正  動物の姿などの心温まるウッドカービング(木彫)。 ◆清水邸本宅 北蔵	<b>70</b> 10.27 fri-10.31 tue <b>角岡秀行 陶 -茶の湯の器-</b> — 角岡 秀行  茶碗、水指、花生など、茶の道具、茶 に関する作品を展示。 ◆清水邸庭園 立札
<b>71</b> 10.27 fri-11.14 tue <b>四季おりおりの和紙折り紙</b> — 小石川 洋子  美しい日本の和紙を使って折り上げ た立体作品など。 ◆清水邸本宅 局長室	<b>72</b> 11.3 fri-11.14 tue <b>歳時季</b> — 佐野 せいじ  版画家。 主に自然風景を描く。 ◆清水邸本宅 茶室	<b>73</b> 10.27 fri-10.31 tue <b>しだれ桜</b> — 高木 君代  桜の絵柄に同じ絵柄を重ねた立体 的な作品。 ◆清水邸本宅 茶室
<b>74</b> 10.27 fri-10.31 tue <b>in,</b> — 谷 正輝  岡倉天心著『茶の本』を土 台にした、プロジェクショ ン・インスタレーション。 ◆清水邸本宅 鉄蔵	<b>75</b> 11.3 fri-11.7 tue <b>Sachiko Nakai exhibition</b> — 中井 幸子  絵画作品の展示。 油画、水彩画。 淡い色彩で心象を描く。 ◆清水邸本宅 鉄蔵	
<b>76</b> 11.3 fri-11.7 tue <b>絵手紙</b> — 半井 順子  見る人が元気になる絵に 言葉が添えられた「絵手 紙」の展示。 ◆清水邸本宅 和室	<b>77</b> 11.3 fri-11.7 tue <b>藍染めの世界</b> — 増田 雅一  染氏・増田雅一による屏 風・のれん・小物等の展示。 ◆清水邸本宅 北蔵	
<b>78</b> 10.27 fri-10.31 tue <b>『櫛』展</b> — 松山 順一  民藝作家。額装した自作 の櫛7～8点と製作工程 表を展示。 ◆清水邸本宅 和室	<b>79</b> 10.27 fri-10.31 tue <b>絵画展「大地の唄」</b> — 宮下 昌也  絵画作品の展示。作品の 前で公開制作を行う予定。 ◆清水邸本宅 大蔵	
<b>80</b> 10.27 fri-11.14 tue <b>廻ルモノコト</b> — 山田 ゆか  トイレットペーパーの芯で つくるリサイクルアート。 ◆清水邸本宅 みぞ蔵		
<b>81</b> 11.10 fri-11.14 tue <b>景色、風</b> — TARO  ペイント布作品によるイン スタレーション。 ◆清水邸本宅 大蔵		

作家ごとに展示期間が異なります

原田・原泉エリア

HARADA : HARAZUMI

## 廃校への想いと縁から生まれた 里山の営みに根ざしたアート

わえる〈しばちゃんランチマーケット〉などがあり、ときおり観光客で賑わいを見せるが、ふだんは農作業者以外にほとんど人影はなく、のどかさが漂う。この地域で特筆すべきは、地元の未来を思う人たちが手を取り合って地域の外の人との交流を生み、徐々にこのエリアを愛する人たちを増やしてきたことだ。7年前に廃校になった小学校を地域住民が中心となって運営している〈さくら咲く学校〉はその象徴だろう。今回のメイン展示会場でもある。会期中はここにアトリエ兼絵画教室を構える、パリやニューヨークでも活躍してきた画家・中瀬千恵子を中心、この土地を思う人の縁でつながってきた9組のアーティストが廃工場や農機具小屋などで作品を展示。トークイベントやガイドツアー、座禅やVR体験、鉛筆画教室など、イベントも盛りだくさんだ。地元民が企画や展示を行い、スタッフとしてお客様を迎える。里山の營みに根差したアートを、ぜひご覧あれ。



# ENTRY PROGRAM



88 10.21sat-11.17fri

## メント・モリ ~いかに人は生きるか~

— 中瀬 千恵子

人は死に向かっていかに生きるか。そして、目に見えないもう一つの世界。彼女は30年以上、「メント・モリ」と「もう一つの空」という2つのテーマを、さまざまなカタチで表現してきました。その中から100号クラスの油彩画50点ほどを体育館に展示し、運動場には、役目を果たしたお茶の木、竹、藤づる、アケビなど、この地の植物の生きる力を再生した立体作品を展示します。中瀬と交流がある美術家・木村鐵雄との共演も見逃せない。

✿さくら咲く学校

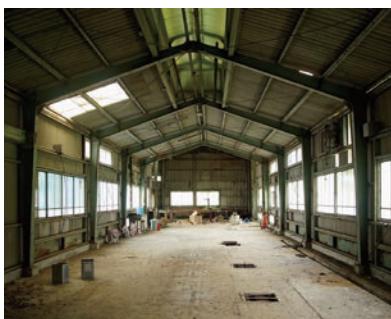
91 10.21sat-11.19sun

## 掛川SPECTACLE

— 鉢井喬

風で動く彫刻を制作する作家・鉢井喬が、7年前に役目を終えた茶工場の跡地で、失われつつある日本の文化と原泉エリアの生活の象徴である“茶産業”を意識した作品を展示する。

✿旧原泉第2製茶工場



82 10.21sat-11.19sun

## 原野谷川アクアティック・アート

— アクアティック・アート

市民アーティストグループによる原野谷川に生息する生物のシルエットをあしらった作品を原野谷川沿いに展示。

✿しばちゃんランチマーケット



83 10.21sat-11.19sun

## 私と掛川のスケッチ展

— 岩本 陽子

サイクリストでもある岩本が、旅した土地を描いた風景画に、そのときの思いを言葉で書き込んだ作品を展示。

✿農機具小屋



● 作品展示 ○ イベント・ワークショップ  
※各施設の詳細はP66をご覧ください。(火・水曜日定休)  
※詳しくはエアチラシをご覧ください。

84 10.28sat-29sun 10:30-12:00  
11.10fri-11sat 14:30-16:00

要申込

## 桜を巡る記憶の旅 i)福島桜紀行の上映 ii)桜薫るお茶会

— 鉢井喬/佐原朋美/松井真理子/砂川哲朗

故郷の風景が尊いものであると教えてくれる、東日本大震災後の福島の桜を撮影した映像作品「福島桜紀行」を上映。鑑賞後はアロマセラピスト監修によるお茶とお菓子で思い出の桜について語らい合いを。

✿さくら咲く学校



90 10.21sat-11.19sun

## 鳥になって掛川(原田・原泉)を見てみよう

— DS-J shizuoka 掛川

原田・原泉の四季をドローンで空撮した春の桜・秋の紅葉の映像作品。

✿さくら咲く学校



92 10.21sat-11.19sun

## 森の都原泉から元気とアートのおすそわけ

— 原泉地区まちづくり協議会

地域住民と地元アーティストによる共同制作作品。「茶園のある風景」を展示。

✿ならここの湯

85 86 87 10.21sat-11.19sun

## 暮らしをもっと豊かに

— 鈴木涉/曾根勇吾/星野広樹

曾根と星野による自然をテーマにした立体作品2点と、山岳ガイドでもある鈴木が撮りためた里山の風景作品を教室に展示。

✿さくら咲く学校



89 10.21sat-11.19sun

## 原泉 丹間焼きの展示

— 長谷川 安孝

教室に茶室をしつらえ、原泉の土を使った陶芸作品を展示。有機茶で訪れた人をもてなす。

✿さくら咲く学校

## エリアMAP



宇宙が生み出す

神秘のアートを見る

星のふるさと。

地域の人たちは自分たちのまちを、誇りを持ってそう呼ぶ。五明エリアは掛川でもとりわけ星が美しく見える丘があり、1994年には新たな彗星が発見された。今回は茶エンナーレのオープニングに合わせ「オリオン座流星群」の鑑賞会を実施。宇宙がつくり出す神秘のアートは感動的に一日を締めくくるだろう。

## ART SELECTION

93 10.21sat-11.19sun

Comet -大地をひらく 星をみあげる-

— 船井 美佐

まちなかエリアの  
すべり台と一対の  
作品として完成。



## ENTRY PROGRAM

94 10.21sat 19:00-21:00

秋の星空鑑賞会

— 農業組合法人五明茶業組合

●彗星発見の丘

開催日に極大を迎えるオリオン座流星群を、彗星発見の地として知られる五明の茶畠で鑑賞する会。お茶のおもてなしを受けながら星の説明もあり。



## その他エリア

SONOTA

会期中は、市内各所に子どもたちの手によるアート作品の展示や、お茶会や写真撮影のワークショップなど、6つのエリアで横断的に行われる参加型イベントが盛りだくさん! エリア外の展示も複数。



## ENTRY PROGRAM

● 作品展示 ○ イベント・ワークショップ  
※各施設の詳細はP66をご覧下さい。

95 10.21sat-11.19sun

巨大昆虫彫刻の世界 — 中嶋大道

ステンレス彫刻の鬼才。制作活動を通して前人未到の世界を開いてきた、他に類例がない日本で唯一一人の作家。異次元ともいえる作品の存在感に、圧倒される。作品市内数ヶ所に展示。



● 五明地区、シオネー前そよかぜ広場、SBSマイホームセンター掛川など

96 10.21sat-11.19sun

ベニヤ人による  
なごみのながめ

— 赤堀 マサシ

● 全域

ベニヤ板に絵を描き、その形にくり抜く「ベニヤ人」を展示エリア各所に配置。「ベニヤ人」は、市内の小学生が作成。

97 10.21sat-11.19sun (火曜休)

千茶文字の展示

— 近藤 光博

● さんりーな(大池2250)

幼稚園児、小中学生、高校生、一般人に思い思いに「茶文字」を色紙に描いてもらい、千文字を展示。

98 10.21sat-11.19sun

茶器(小)Chakiko

— 羽田 隆志

● まちなか案内処

ペットボトルに装着する可愛らしい急須を3Dプリンターで制作。スタンプラリーの景品としてプレゼント。

99 10.21sat, 11.5sun 10:00-16:00

くじ引きドローイングワークショップ  
in かけがわ茶エンナーレ

— 乾 久子

くじを引き、そこに書かれたお題を描き展示し、今度は自分がお題を書きくじに入れる、知らない誰かとのコミュニケーションのなかで作られるアート。



100 ①10.21,22 ②11.4,5 ③11.11-19 9:30-16:00

姉妹都市との共演茶会

— 茶話の会

掛川の姉妹都市(コニング、ユージン、フェンソングン、ペーザロ)の珍しい茶器を使ったお茶会。

● ①二の丸茶室、②竹の丸、③永福寺

101 (ワークショップ) 11.4sat 14:00-  
(展示) ①11.4sat-12sun ②11.11sat-19sun

掛川茶エンナーレ! 美エンナーレ!  
撮りエンナーレ!

— 文化実践集団すずやカメラ

生産現場や風景、茶室など、様々な「茶」をテーマにした写真撮影ワークショップを実施し、撮作品のいくつかを展示。

● (ワークショップ) 原田園 要申込  
(展示) ①清水邸庭園 ②かけがわ西の市

# 掛川市全域MAP



# まちなかMAP



アートセレクション  
アーティスト一覧

- 1 小川佳夫
- 2 丹羽菜々
- 3 船井美佐
- 4 中村ケンゴ
- 5 小林孝亘
- 6 長谷川愛
- 7 増田将大
- 8 濱口健
- 9 薄久保香
- 10 大庭大介
- 11 竹廣泰介
- 12 笛田亞希
- 13 柳澤紀子
- 14 川久保ジョイ
- 15 山口典子
- 16 丹羽勝次
- 17 グループ幻触
- 18 平川恒太
- 19 ミヤケマイ
- 20 石塚隆則
- 21 椿昇

- ♀ 茶エンナーレバス バス停
- 東ルート(東山・日坂)
- 北ルート(五明・原田・原泉)
- 南ルート(大東・横須賀)

## 土・日・祝専用 茶エンナーレバス(無料周遊バス)・

●東ルート(東山・日坂) (料金の表記は、[行]掛川駅北・南口、[帰]東山からの料金です。)

バス停	路線バス(料金)	無料周遊バス	路線バス(料金)	無料周遊バス	路線バス(料金)	無料周遊バス	路線バス(料金)	無料周遊バス	路線バス(料金)
掛川駅南口		9:00		10:30		12:00		13:30	
(掛川駅北口)	8:25	●		10:00	●		11:45	●	
事任八幡宮前	8:44 (300)	9:19	10:19 (300)	10:49	12:04 (300)	12:19	13:49	14:19 (300)	
日坂	8:45 (300)	9:20	10:20 (300)	10:50	12:05 (300)	12:20	13:50	14:20 (300)	
東山	8:56 (300)	9:30	10:31 (300)	11:00	12:16 (300)	12:30	14:00	14:31 (300)	
東山	9:10	●	9:45	10:45	●	11:15	12:30	●	13:00
日坂	9:19 (300)	9:55	10:54 (300)	11:25	12:39 (300)	13:10	14:25	14:54 (300)	
事任八幡宮前	9:22 (300)	9:57	10:57 (300)	11:27	12:42 (300)	13:12	14:27	14:57 (300)	
(掛川駅北口)	9:40 (300)		11:15 (300)		13:00 (300)			15:15 (300)	
掛川駅南口		10:15		11:45		13:30	14:45		

●北ルート(五明・原田・原泉) (料金の表記は、[行]掛川駅北・南口、[帰]ならこの湯からの料金です。)

バス停	路線バス(料金)	無料周遊バス	路線バス(料金)	路線バス(料金)	無料周遊バス	路線バス(料金)	路線バス(料金)	無料周遊バス	路線バス(料金)
掛川駅南口		9:00			11:00			13:15	
(掛川駅北口)	8:25	●		9:40	●	10:30	●		11:45
(西郷郵便局前)	8:33 (200)		9:48 (200)	10:38 (200)		11:53 (200)	12:53 (200)		
五明茶業組合		9:15				11:15		13:30	
柴田牧場(大野橋)	8:51 (300)	9:30		(倉真行)	10:56 (300)	11:30	(倉真行)	13:11 (300)	13:45
さくら咲く学校(萩間)	8:57 (300)	9:35			11:02 (300)	11:35		13:17 (300)	13:50
ならこの湯	9:00 (300)	9:38			11:05 (300)	11:38		13:20 (300)	13:53
ならこの湯	9:30	●							
さくら咲く学校(萩間)	9:33 (200)		(倉真発)		10:05	11:35	●		
柴田牧場(大野橋)	9:38 (200)				10:10	11:38 (200)		12:05	13:50
五明茶業組合					10:15	11:43 (200)		12:10	13:53 (200)
(西郷郵便局前)	9:55 (300)	10:26	●		10:30			12:15	13:58 (200)
(掛川駅北口)	10:06 (300)	10:37 (200)			12:00 (300)	12:26	●	12:30	
掛川駅南口								14:15 (300)	14:31
ならこの湯	10:45							14:26 (300)	14:42 (200)

●南ルート(大東・横須賀)

バス停	無料タクシー	無料周遊バス	無料タクシー	無料周遊バス	無料タクシー	無料周遊バス	無料タクシー	無料周遊バス
掛川駅南口	8:45	9:30	10:40	11:30	12:40	13:30	14:40	15:30
吉岡彌生記念館	9:05	9:50	11:00	11:50	13:00	13:50	15:00	15:50
高天神下池	9:15	10:00	11:10	12:00	13:10	14:00	15:10	16:00
シオーネ	9:25	10:10	11:20	12:10	13:20	14:10	15:20	16:10
貞永寺	9:35	10:20	11:30	12:20	13:30	14:20	15:30	16:20
清水邸	9:55	10:40	11:50	12:40	13:50	14:40	15:50	16:40
掛川駅南口	10:25	11:10	12:20	13:10	14:20	15:10	16:20	17:10

## 定期路線バス(有料)時刻表

まちなかエリアは「市街地循環線(有料)」をご利用ください。

無料周遊バス 路線バス(料金)

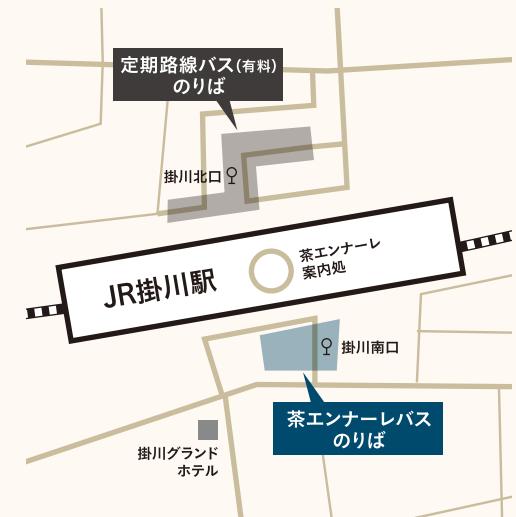
15:00		
	15:55	●
15:19	16:14 (300)	
15:20	16:15 (300)	
15:30	16:26 (300)	
16:00	16:40	●
16:10	16:49 (300)	
16:12	16:52 (300)	
	17:10 (300)	
16:30		



## 茶エンナーレバス(無料周遊バス) 定期路線バス(有料)※

をかけ合わせた、土・日・祝の各会場への時刻表です。

※通常の路線バスは運賃(有料)がかかりますのでご注意願います。



路線バス(料金) 路線バス(料金) 無料周遊バス 路線バス(料金)

13:50	●	14:35	●
13:58 (200)		14:43 (200)	
		15:30	
(倉真行)		15:01 (300)	15:45
		15:07 (300)	15:50
		15:10 (300)	15:53

無料周遊バス 路線バス(料金) 無料周遊バス 路線バス(料金)

14:20	15:40	●	16:10
14:25	15:43 (200)		16:15
14:30	15:48 (200)		16:20
14:45			16:35
	16:05 (300)		16:36
	16:16 (300)		16:47 (200)
15:00		16:50	

## 運行日程

10.21(土)・22(日)・28(土)・29(日)

11.3(金祝)・4(土)・5(日)・11(土)・12(日)・18(土)・19(日)

# 主要展示会場情報

MAP	施設名	住所	鑑賞可能時間	定休日	お問い合わせ	単館入館料
P44・63	掛川城天守閣・御殿	掛川市掛川1138-24	9:00~17:00(入場16:30まで)	なし	0537-22-1146	大人410円、小中学生150円
P44・63	大日本報徳社	掛川市掛川1176	9:00~17:00(入場16:30まで)	なし	0537-22-3016	大人200円、中学生以下無料
P44・63	竹の丸	掛川市掛川1200-1	9:00~17:00(入場16:30まで)	なし	0537-22-2112	大人100円、小中学生50円
P63	二の丸美術館	掛川市掛川1142-1	9:00~17:00(入場16:30まで)	月曜日	0537-62-2061	大人200円、中学生以下無料
P44・63	中央図書館	掛川市掛川1148-1	9:00~17:00	月曜日	0537-24-5921	-
P44・63	松ヶ岡	掛川市南西郷838	10:00~16:00(入場15:30まで)	月・火曜日	-	大人300円、小中学生150円
P63	中部電力掛川営業所ギャラリー	掛川市中央1-5-8	9:00~16:00	なし	-	-
P44・63	we+138ストア・テラス	掛川市駅前7-20	9:00~17:00	なし	0537-22-1380	-
P44・63	掛川市役所	掛川市長谷1-1-1	9:00~17:00	なし	0537-21-1111	-
P63	資生堂アートハウス	掛川市下俣751-1	10:00~17:00(入場16:30まで)	月曜日(祝日の場合は翌日)	0537-23-6122	-
P63	掛川森林果樹公園アトリエ	掛川市下俣1-90	9:00~17:00	なし	0537-21-2020	-
P49	日坂宿	掛川市日坂	10:00~16:00	なし	-	-
P60	五明茶業組合	掛川市五明431	9:00~17:00	月・火曜日	0537-28-0552	-
P59	さくら咲く学校	掛川市萩間423	10:00~16:00	火・水曜日	0537-25-2580	-
P59	しばちゃんランチマーケット	掛川市大和田25	10:00~17:00	火曜日	090-2342-2725	-
P53	吉岡彌生記念館	掛川市下土方474	9:00~17:00(入場16:30まで)	月・第4火曜日	0537-74-5566	大人200円、中学生以下無料
P53	文化会館シオーネ	掛川市大坂7373	9:00~17:00	なし	0537-72-1234	-
P53	大東図書館	掛川市大坂7152	9:00~17:00	月曜日	0537-72-1143	-
P53	貞永寺	掛川市大坂3706-1	9:00~16:00	なし	-	-
P56	清水邸	掛川市西大渕5298-2	10:00~16:00	【展示】水・木曜日【湧水亭】木曜日	0537-48-6456	-

## レンタカー

トヨタレンタリース静岡 掛川新幹線口店

☎ 0537-22-0100

住所: 静岡県掛川市南1-2-1  
営業時間: 8:00~20:00

オリックスレンタカー 掛川店

☎ 0537-61-8543

住所: 静岡県掛川市亀の甲1-18-3  
営業時間: 9:00~19:00(日・祝~18:00)

## レンタサイクル

えきなか案内処

☎ 080-2644-3898

住所: <南口>茶エンナーレえきなか案内処  
<北口>we+138 ストア

営業時間: <南口>9:00~17:00  
<北口>10:00~19:00

料金: 500円/日(保険料含む)

↙この一冊で、有料展示会場のすべてに入場できる!/  
**「かけがわ茶エンナーレ PASSPORT」**

市内の施設、食事処などのお得なクーポンつき!

料金: 大人 ¥1,000  
小中学生 ¥300

有効期間: 10.21sat~11.19sun

販売場所: 茶エンナーレ案内処(JR掛川駅南口内、こだわりっば内)掛川城券売所等



かけがわ茶エンナーレ実行委員会 ☎ 0537-21-1126

## 各種交通 インフォメーション

### 観光タクシー

掛川タクシー株式会社

☎ 0537-22-3231

☎ 0120-37-3255

タイムズ カー レンタル 掛川新幹線口店

☎ 0537-62-4130

住所: 静岡県掛川市亀の甲1-1-6  
営業時間: 8:00~20:00

日産レンタカー 掛川新幹線口店

☎ 0537-22-4123

住所: 静岡県掛川市南1-5-1  
営業時間: 8:00~20:00

■協力:ヤマハ発動機株式会社

# 茶エンナーレGOODS



## ① オールスタッフ(株)

:オリジナル ヒノキコースター

掛川市産FSC認証材を使用。  
500枚限定販売で価格は1枚  
540円、3色展開(赤・青・緑)。

細田300 ☎23-0131  
時:8:00~17:00 休:第2・4土・日・祝

- 無料お茶すっぽと
- 有料お茶すっぽと



## ② 山喜製茶組合 茶店やまき

:茶喜(さき)とお茶たい焼きセット等

11月1日~19日の期間限定メニュー(平日は13時~17時、土日は10時~17時)。焼き立てで食べるたいやきからは深蒸し茶の良い香りが。月替わりの手作り餡も人気。

入山潮811 ☎74-2384  
時:9:00~18:00 休:木曜日



Breaktime

掛川茶で

## ③ たこ満(アトリエ、掛川本館、秋葉通り店、大東総本店)

:茶エンナーレどら焼き

きれいな緑色の皮がオリジナルのミニどら焼きは110円。粒あんと掛川茶求肥入り。

(アトリエ)下俣I-90 ☎21-2020  
時:9:00~17:00 休:無休



## 公式GOODS

Tシャツ  
トートバッグ



東泉一郎デザイン  
のTシャツとトート  
バッグ

## 資生堂パーラー 花椿ビスケット

資生堂パーラーを代表するお菓子の限定缶「緑」を特別に販売。



## ④ 佐々木製茶(株)

:①お茶②ラングドシャ③フィナンシェ

茶エンナーレオリジナルパッケージで、世界農業遺産茶草葉農法のお茶、掛川茶や掛川抹茶をふんだんに使用したお菓子。

上内田350 ☎22-6151  
時:9:00~17:00 休:日曜日・祝日

## 茶エンナーレGOODS取り扱いSHOP

店舗名	住所	電話番号	定休日
こだわりっば	城下6-12	24-8700	不定休
これしきか処	南1-1-1	0120-47-1056	無休
we+i38ストア	駅前7-20	22-1380	無休
つま恋リゾート彩の郷	満水2000	0120-244-255	無休

## ⑤ (有)マレア エス・エル

:掛川フィナンシェ

掛川の特産品「深蒸し茶」「紅ほっぺ苺」「開運(日本酒)」を原材料としたまるごと掛川の焼菓子。カフェでは期間限定のお得なメニューも。

上内田813-1 ☎24-7244  
時:10:00~20:00 休:日曜日・祝日



## ⑥ 長栄堂

:①お茶の葉クッキー

②マドレーヌ ③お菓子とうふ

「茶エンナーレに来た」の一言を言うと対象商品が割引に!?

大坂2759-1 ☎72-2574  
時:9:00~19:00 休:火曜日



## ⑦ 大国屋本店

:竹廣泰介 茶碗 粉引吸出茶碗・鉄釉猪口茶碗

アートセレクションのアーティスト、竹廣泰介の茶碗の販売。「遊茶具へどこでもお茶会セット~」(掛川で焼かれた吸須+掛川の布+掛川茶)も。

we+i38shop103 ☎22-3225  
時:10:00~19:00 休:水曜日

## ⑧ ファニーフーム

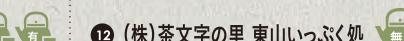
:掛川茶マフィン(数量限定)

we+i38ストア内 ☎62-0818  
時:平日11:00~15:30 18:00~21:00  
土日11:00~14:00 18:00~22:00 休:不定休

## ⑨ (有)月茂登

:10.28.29限定ランチ/夕食コースと掛川茶風呂(要予約)

掛川I074-1 ☎22-2275  
時:17:00~22:00 休:日曜日



## ⑩ (株)茶文字の里 東山いっぷく処

:おもてなしセット(山頂店)

東山II173-2 ☎27-2266  
時:9:00~16:00(山頂店10:00~) 休:水曜日(山頂店月曜日)

## ⑪ 丸山製茶(株)直売店 茶葉きみぐら

:茶スイーツセット

板沢510-3 ☎24-6000  
時:10:00~18:00 休:第4火曜日



## ⑫ we+i38ストア

:茶エンナーレ弁当ほか

駅前7-20 ☎22-1380  
時:10:00~20:00 休:無休



## ⑬ 二の丸茶室

:掛川茶(煎茶と抹茶)セット(生菓子付)

掛川II138-24 ☎23-1199  
時:9:30~17:00(最終16:30) 休:無休



## ⑭ WINEBARGLITTER

:お茶のモヒート、お茶のプリン

駅前5-12-102 ☎61-2323  
時:ランチ11:30~14:00(L.O.)  
ディナー19:00~25:00(L.O.) 休:日曜日、月曜日



## ⑮ ダニューブ洋菓子店

:掛川茶まんじゅう

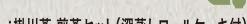
緑ヶ丘2-5-9 ☎24-1624  
時:10:00~19:00 休:無休



## ⑯ 掛川市有形文化財 竹の丸

:掛川茶 煎茶セット(深蒸しロールケーキ付)

掛川II200-1 ☎22-2112  
時:9:00~17:00 休:無休



掛川家康が掛川を訪れた際に、山内一豊が掛川茶と「わらび餅」でもなしたというエピソードが。

## 「掛川茶わらび餅」販売店一覧

茶エンナーレではみなさまをわらび餅でおもてなし!

店舗名	住所	電話番号	定休日
大竹屋菓子店	柳町32	22-2494	水曜日
やまとき製菓舗	富部300-6	22-4345	第1・3水曜日
ダニューブ洋菓子店	緑ヶ丘2-5-9	24-1624	第2月曜日
もち金	塙町3-13	22-2694	水曜日
菓子司 しみづ	横須賀1395-3	48-2179	不定休
山本屋商店	日坂1-2	27-1018	不定休
たこ満(掛川本館、秋葉通り店、大東総本店)	南西郷458-7、大池2735、大坂419-1	22-7288、23-8880、72-2553	不定休



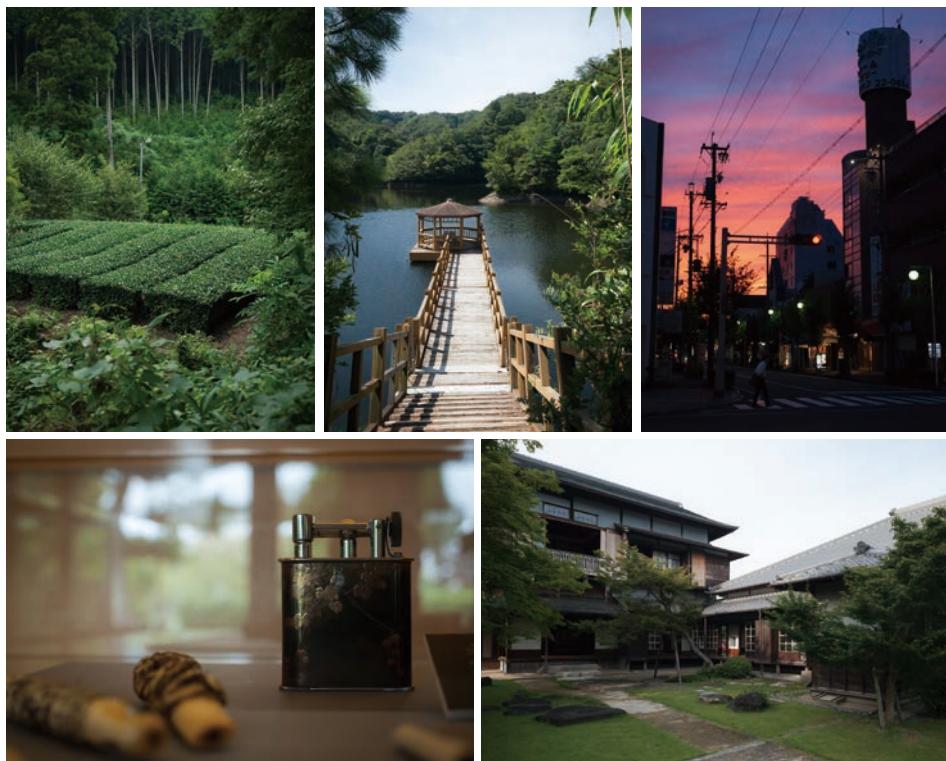
※市外からのお電話は、市外局番[0537]をおつけください。

# かけがわ茶エンナーレ EVENT PROGRAM

■ 茶エンナーレイベント ■ アートセレクション関連イベント  
 ■ みんなのミュージアム関連イベント ■ タイアップイベント

日程	イベント内容	会場	申し込み
10月	オープニングイベント 竹廣 泰介「二代安達瞳子によるワークショップ・和の美」 happy unbirthday+戸井田 雄「日常への旅」※10/22 「五感で感じる!かけがわ栗ヶ岳山麓 里山めぐり」※~11/19 「秋の星空鑑賞会」 「現代アート茶会『喫茶去』」※期間中の土日 「掛川茶入り!陶器の箸おきをつくろう!」※期間中の土日 「くじ引きドローイング」※11/5 「姉妹都市との共演茶会」※10/22, 11/18, 19 「ドローンでVR体験」※11/12 「遠州横須賀街道ちっちゃな文化展」※10/22	大日本報徳社 二の丸美術館 文化会館シオーネ 日坂・東山・倉真 五明地区の茶畠 大国屋本店 Ivy Pottery たまり~な 二の丸茶室 さくら咲く学校 遠州横須賀街道	不要 申0537-62-2061 申0537-21-1126 申0537-28-0082 申0537-28-0552 不要 申050-7110-3508 不要 申0537-23-1199 不要 申0537-22-4067 駅前通り 中央図書館 さくら咲く学校 中央・大東・大須賀図書館 掛川市役所 大日本報徳社 掛茶料理むとう 掛川城御殿 さくら咲く学校
	船井 美佐「お茶会ごっこ」 happy unbirthday+戸井田 雄 アーティストトーク アートアカデミー「報徳とアートとまちづくりを語る」 「Kakegawa Band Festival」 「茶びねすワークショップ」※11/12 「桜を巡る記憶の旅」※10/29 「図書館フェスティバル」※~11/5	五明茶業組合 文化会館シオーネ 大日本報徳社 駅前通り 中央図書館 さくら咲く学校 中央・大東・大須賀図書館 掛川市役所 大日本報徳社 掛茶料理むとう 掛川城御殿 さくら咲く学校	不要 不要 申0537-21-1126 不要 不要 申0537-22-4067 不要 申0537-25-2580 不要 申0537-21-1126 申0537-21-1126 申050-5241-2285 不要 申0537-25-2580
	29(日) 30(月)	山口 典子「親子でつくろう★肩のりの虫の刺繍シール」 長谷川 愛 アーティストトーク 「乾杯!プロジェクト～掛川茶と焼酎のおいしい関係～」 「市民茶会」 「原泉の土を使った陶芸教室」※11/13	掛川市役所 大日本報徳社 掛茶料理むとう 掛川城御殿 さくら咲く学校
	3(金・祝)	音羽晴佳 アーティストトーク 「月夜の煎茶会」 「かけがわチョーキーアートフェスティバル&おかみさん茶屋」 「つながる~1枚のハガキから~」ワークショップ※~11/12 「白銀展」※~11/19 「商工まつり」 「T-1グランプリ in 掛川」 「菊花展」※~11/5 「文化協会掛川支部文化祭」※11/1~11/3	吉岡彌生記念館 掛川城御殿 駅前通り 大東図書館 大東図書館 掛川駅北中心市街地 大日本報徳社 三の丸広場 生涯学習センター
	4(土)	平川 恒太「画家の目、君の目、私の目」 大橋史人アーティストトーク 「茶エンナーレ!美エンナーレ!振りエンナーレ」 「姉妹都市との共演茶会」※11/5 「文化協会大東支部・大須賀支部文化祭」※~11/5	掛川駅周辺 大東図書館 原田地区 竹の丸 大東・大須賀
	5(日)	前田直紀ライバフォーマンス+アーティストトーク 「SPACリーディング・カフェ」 親子写生大会 アートスポットを巡るガイドサイクリング 中野純アーティストトーク TIMEEMIT LIVE in 東山 「かけがわ消防フェア2017」 JR東海「さわやかウォーキング」 「フラワーフェスティバル」※~11/12	貞永寺 五明茶業組合 掛川花鳥園 掛川市内 上土方コミュニティセンター 東山茶業組合 他 中央消防署 JR掛川駅 生涯学習センター
	11(土)	長谷川 愛「DNAワークショップ」 「姉妹都市との共演茶会」 「里山ガイドツアー」 奥野晃士・佐々木裕一「歴史演談スペシャル」 かけがわ教育の日 ファイナルイベント「大茶縁会」 「多文化共生フェスティバル」	大日本報徳社 永福寺 さくら咲く学校 貞永寺 文化会館シオーネ 三の丸広場 駅前通り
	12(日)		
	18(土)		
	19(日)		

※は、同イベントの別開催日 ◎詳細は、かけがわ茶エンナーレWEBサイトをご覧ください。◎記載内容は予告なく変更となる場合があります。



## かけがわ茶エンナーレ実行委員会

顧問： 熊倉 功夫、柳澤 紀子、榛村 純一  
 会長： 日比野 秀男  
 実行委員長： 大木 敏行  
 副実行委員長： 杉井 清久  
 実行委員： 石野 弓子、太田 和良、大庭 大介、熊谷 雄次、熊切 行弘、  
 佐藤 雄一、榛葉 映香、榛村 孝幸、杉山 幸一、竹廣 泰介、  
 田邊 ゆかり、中村 隆哉、笛岡 敦雄、長谷川 八重、平野 正俊、  
 平松 きよ子、山本 和子、渡邊 圭介 (五十音順)

## ■ かけがわ茶エンナーレ 公式ガイドブック

発行： かけがわ茶エンナーレ実行委員会  
 企画・制作： 株式会社SBSプロモーション  
 デザイン・印刷・製本： 株式会社エイエイビー  
 編集・取材： 志馬 唯  
 写真： 朝野 耕史